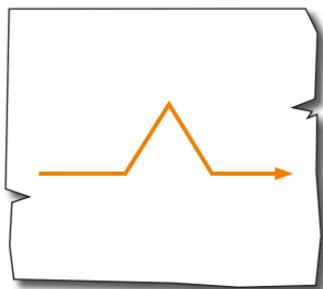


# 7 THE 7 FRAMES FOR All LIFE

# 7つのワクワク枠

## みんなのコンパス②

### 第7フレーム



木岬 さんぽ  
KIMISAKI SAMPO

## 究極の意味を 見つけるんだ！

恋人<sup>る</sup>瑠音<sup>ね</sup>、おじいさん…と愛し合う  
青年期さんぽのフルーツフル果実物語

SAMPO FRUITS



## みんなのコンパス②



### プロローグ

202

だいがく ねん め しょか  
大学2年目の初夏——

ぼくらは、またいっしょに、おじいさんに会いに岬へと向かった。

それまでの発見で溜音は十分満足していたようで、「これらが究極の意味かもしれないね? ♪」と言っていた。

もちろん、それまでの発見も、とてもよい発見だと思った。

でも、内心——

これらの意味に、あのおじいちゃんがたどり着けなかったとは考えにくいのではないかな?

そんな気がして、僕は物足りなさを感じていた。

「この急な上り坂って—— ハア、ハア… 何度来ても、きつくてイヤだね。ほんとイヤなっちゃう〜」坂を上りながらの彼女。

「“イヤイヤ”言うなって——。よけいイヤに思えてくるだろ?」と僕。

「だって、イヤなんだもん。ハア、ハア…」

「ちょっと休やすもうか？」

「ううん、大丈夫だいじょうぶ。ありがとう。ハア、ハア…」

思ったんだけどさあ。こんなに坂さかがきつくてイヤなのに、それでも坂さかを上のぼるっていうのは—— おじいさんに会あいたい気きもちが、急きゅうな坂さかを上のぼるのがイヤという気きもちより、まさっているからよね？

ハア、ハア…」

「そうだね。——うん。人生じんせい、“100%好きす”とか“100%いい”とかだけで成なり立たっているとは限かぎらないんだね」

「ホント、微妙びみょうなことってあるよね。ハア、ハア…」

实际じっさいの人生じんせいでは——。ハア、ハア…」

「——確たしかに、好きすキライ、よい悪いわる…が、それぞれ微妙びみょうな比率ひりつかん関係けいで成立せいりつしているときもある。だから、ときまよに迷ちゆうったり躊躇ちゆうちよしたりもするし—— ときうごに動うごきがとれなかつたりもする」

「そうね。ハア、ハア…」

「それでも、ときおもには、思おもいきつて何なにかのアクションを取とること、その結果けつにおうじた新あらたな別べつのアクションを取とること… が必要ひつようになつたりして——」

「——ええ、そうね。ハア、ハア…」

坂さかを上のぼりきると——

なだらかな下くだり勾こう配ばいの先さきに、キラリがみ見みえた。

その認にん識しきは、それまでの僕ぼくらの疲つかれを、一瞬いつしんで吹ふき飛とばしてくれ  
た。さわやかな海風うみかぜとともに——

# 203

ふたりで駆け降りた先に待っていたキラリの正体は、1本のピン  
だった。——手紙？

その中身は、1枚の手紙と1枚の図だった。

まご 孫 or ひ孫のようなきみへ

また来てくれて、ありがとう。

おまえさんが、これを読んでくれておる頃、わしは  
航海の真っ最中のはずじゃ。

近頃、航海に、はまってしまつてのお。

究極の意味が、わかったかどうかじゃって？

それには、もう1枚の図がヒントになるはずじゃ。

健闘を祈る。

それじゃ。元気でな。

くれぐれも、かわいい彼女にもよろしく。

幸せに生きるんじゃぞ。

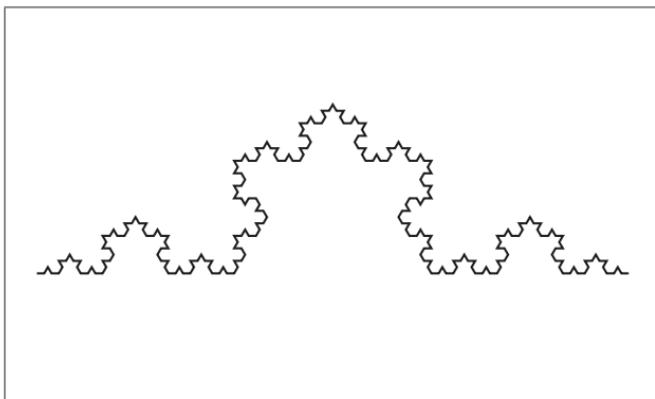
岬のおじいさんより

音楽フェードアウト ♪航海 Voyage

「フフッ♪ かわいい<sup>かのじょ</sup>彼女だって——」 <sup>て</sup>照れる<sup>る</sup>溜音<sup>ね</sup>。

<sup>ぼく</sup>僕は、もう1枚の<sup>まい</sup>図<sup>ず</sup>を<sup>ひろ</sup>広げてみた。

ランプベリーの<sup>こ</sup>ように、のぞき<sup>こ</sup>込む<sup>る</sup>溜音<sup>ね</sup>——。



「不思議<sup>ふしぎ</sup>な<sup>かたち</sup>形——」 <sup>かのじょ</sup>彼女が<sup>くち</sup>ポツリと<sup>くち</sup>口にした。

「ああ」 <sup>たし</sup>確かに<sup>ふしぎ</sup>不思議<sup>だ</sup>だった。——<sup>なん</sup>なんだ<sup>こ</sup>こりや？

でも——

このとき、<sup>ぼく</sup>僕は、とてもワクワクしていた。

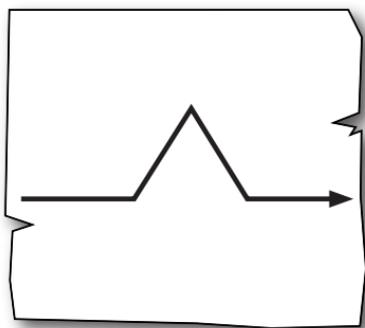
この<sup>ず</sup>図<sup>ず</sup>の<sup>と</sup>ナゾ<sup>と</sup>を解きたい！ これを<sup>きゆうきよく</sup>ヒント<sup>い</sup>にして、<sup>み</sup>究極<sup>み</sup>の意味<sup>を</sup>を

<sup>み</sup>見つけるんだ！

そして、この<sup>きゆうきよく</sup>究極<sup>と</sup>のカギ<sup>と</sup>で、<sup>と</sup>ライフ<sup>と</sup>のパズル<sup>と</sup>を解くんだ！

音楽——テーマ曲イン  
♪ハーモニー Harmony  
タイトル流れて。  
——音楽フェード・アウト

# 第7フレーム



## 204

その熱意とは裏腹に、何の成果も得られないまま、とうとう夏休みにに入った。

音楽イン ♪夏 Summer

夏休み3日目、街の書店へ向かって一緒に歩いている溜音と僕。

「究極の意味——」僕のつぶやき。

「もう、ずっととそればかり。フツッ♪」彼女のフォロー。

溜音は相当あきれていたらしい。

でも——実は、彼女への誕生日プレゼントを計画していた。

そのために近くのスーパーでアルバイトをさせてもらっていた。

仕事内容は、朝早く特殊なトラックで運ばれてきた牛乳やヨーグルト、スイーツやアイス、豆腐や納豆などの商品を店内の各コーナーに陳列することで——それは「品出し」と呼ばれていた。

本屋に着いた。

「じゃあ、こっちは、まず新刊書コーナーや雑誌コーナーあたりを見たら、そのあと詩集コーナーに行っているね」と溜音。

「了解。こっちは、いつもの場所に行っているよ」

いつもの場所——専門書コーナーに僕はどおり着いた。

生命科学——分子生物学、細胞生物学、分子発生生物学、分子遺伝学…

——何か、いい本がないかなあ。

しばらくの間、平積みされた本の表紙のタイトルたちを眺めた。

それから、気になる一冊を見つけた僕は、その本に右手を伸ばした。すると、その最中に、突然、左腕がグイと引っぱられた。

音楽急停止 ♪夏 Summer

！？ 見ると、そこに瑠音が立っていた。

「え？」 思わず疑問の声を上げる僕。

「いいから来て。こっち——」 雑誌コーナーまで僕の手を引いた彼女は、そこにあった“現代用語事典”の最新刊を手にとると、ペラペラとめくり始めた。あるページを開くと注意を促した。

「ほら、見て」

その瞬間、僕は目を大きく見開いた。

「あっ！」 思わず驚きの声を上げた。

そこには、おじいさんの手紙に添えられていたあの図形が、そっくりそのまま載っていたのだ。

それは、“フラクタル”の項目にあった。

「フラクタル——」・・・「どうやってこれを——」

「ある事柄について試しに調べてみたくなって、ペラペラをめくっていたの。そしたら、これが、いきなり目に入ってきて——」

「何について調べていたんだい？」 思わず彼女に尋ねた。

「——。フラ——ダンス？」 彼女は、気恥ずかしそうに告白した。

「——瞬間—— 瑠音が、ほんわりとフラダンスを踊っている姿が、心に浮かんだ。

「——」・・・「——あ、ありがとう」 でかした！

フラクタル——

そのキーワードとの出会いがきっかけとなり、フラクタルと関連する文献——コッホ曲線、自己相似性、カオス、複雑系、非平衡開放系、自己組織化、進化、脳科学、神経系の可塑性、認知科学…などのキーワードを含む文献を、次々と読みまくることとなった。

この“自分の視野を広げる読書体験”は、いわば“マイ・ブックサーフィン”だった。

それは同時に、“人類の叡智の森の果実たちを探索する旅”でもあった。僕は、そのフルーツ探索の旅に熱中した。のめり込んだ。7つのワクワク枠が提供してくれるコンパスをしっかりと持ち続けながら——。

溜音は、そんな僕を応援してくれる一方で、「無理しないでね」と僕の健康のことを気遣ってくれた。

でも——

秋が深まりつつあった頃、体調を崩したのは、彼女の方だった。

音楽イン ♪秋 Autumn 206 に続く

## 206

「ゴホッゴホッ。バカね。自分の方こそ、健康に注意しなさいって感じよね？ 試験が重なってストレスフルだったから、なおさら。試験が無事済んだのは、よかったけれど——」と溜音。

とにかく僕は看病した。夕方、彼女のアパートにて——

「あなたに、うつしちや悪いわ」と言<sup>い</sup>って、初果陽家秘伝の水で濡らしたテッシュ&ペーパータオルを挿<sup>さ</sup>んだ加湿マスクを着用しながらベッドで横<sup>よこ</sup>になっている彼女と、「私<sup>わたし</sup>から、うつされませんように」と言<sup>い</sup>われて同じ加湿マスクを着用させられながら、そばのイスに座<sup>すわ</sup>っている僕<sup>ぼく</sup>。

「あっちの方は、どう？ ——フラ、クタル？」彼女が口を開いた。

「ああ、なんとか—— っていうか、今<sup>いま</sup>は、それどころじゃないだろ？ 今<sup>いま</sup>は自分の体のことを心配<sup>しんぱい</sup>しているんよ」

「——はい。アハッ♪ ありがとう」

ピピッー、ピピッー。体温計<sup>たいおんけい</sup>が鳴<sup>な</sup>った。

体温計<sup>たいおんけい</sup>を腋<sup>わき</sup>の下から取り出して確認<sup>しん</sup>した彼女は言<sup>い</sup>った。「36度8分<sup>ぶ</sup>。大<sup>たい</sup>したことなさそうで、よかった——」

「まずは一安心<sup>ひとあんしん</sup>だね。——まあ、でも、念<sup>ねん</sup>のため、もうしばらく休んでいた方が<sup>ほう</sup>いいと思うよ<sup>おも</sup>よ」と僕<sup>ぼく</sup>。

「——ええ、そうね。——。でも——」

「ん？ どうしたの？」

「うん。一安心<sup>ひとあんしん</sup>したら、お腹<sup>なか</sup>ペコペコ度<sup>ど</sup>Max状態<sup>まックスじょうたい</sup>？

ずっと食欲<sup>しょくよく</sup>がなかったから—— こししばらく、食事<sup>しょくじ</sup>らしい食事をほとんど摂<sup>と</sup>ってなくて——」

「ええ!？」

音楽フェード・アウト ♪秋 Autumn

## 207

それから、誕生日が迫っていた、お腹ペコペコ度 Max 状態の溜音に、特製バースデーパンケーキを提供するために、フルスピードで台所で格闘した。

「あっちい！！」 急いで指を水道水で冷やした。

「——大丈夫？」 ベッドからの彼女の声。

「大丈夫、大丈夫。余裕さ。アハッ。——決して見に来ないんよ。

そのまま休んでいるんよ。できあがったら、すぐ知らせるから」

「ええ、わかったわ。——なんだか『鶴の恩返し』みたい」

そして——

「ジャン！ 堂々の完成！♪」 そう言いながら、できたの“アイスクリーム・オン・フルーツ・イン・ヨーグルト・オン・パンケーキ・フォー・溜音”を、彼女が待っているテーブルまで運んだ。

「うわー、おいしそう♪」 マスク越しの、笑みあふれる溜音の顔。

「だろだろ？」

いちご、ブルーベリー、みかん、りんご、バナナ、アイスクリーム、ヨーグルト、牛乳、卵、ホットケーキの素——あらかじめパイト先のスーパーで買って準備しておいた材料を主に使って、彼女のアパートにあった材料も適度に交えながら、作ったケーキだった。

溜音は、テーブルの上のケーキをまじまじと見つめ続けた。

なぜか食べようとしないう彼女を見て、僕は思わず尋ねた。

「どうしたんだい？」

「困った～。どうしよう～」

「何か、<sup>なに</sup>苦手な<sup>にがて</sup>食材<sup>しょくざい</sup>が入<sup>はい</sup>っていたとか？」

「ううん、そうじゃなくて、ケーキを<sup>た</sup>食<sup>く</sup>べたいのは<sup>やまやま</sup>山々な<sup>のよ</sup>。でも、ケーキを<sup>た</sup>食<sup>く</sup>べるためにはマスクを<sup>はず</sup>外<sup>はず</sup>さなければならなくて、それだと、あなたに<sup>かぜ</sup>カゼがうつる<sup>かも</sup>かもしれない。ああ、<sup>こま</sup>困<sup>こま</sup>った——」

僕は<sup>ぼく</sup>、<sup>おも</sup>思わず<sup>いつしんここえ</sup>一瞬<sup>だいいょうぶ</sup>心<sup>だいいょうぶ</sup>笑<sup>なに</sup>んだ。「大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>。大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>。何も<sup>なに</sup>話<sup>はな</sup>さず黙<sup>もくもく</sup>々と<sup>た</sup>食<sup>く</sup>べれば<sup>いい</sup>いんだよ。こっちはマスクを<sup>つ</sup>着<sup>つづ</sup>け続けているし」

「そう？」と<sup>いい</sup>いながら、<sup>ちい</sup>小さく<sup>くび</sup>首<sup>くび</sup>を<sup>る</sup>か<sup>ね</sup>しげる<sup>る</sup>溜<sup>ね</sup>音<sup>ね</sup>。

「そう」と<sup>いい</sup>いながら、<sup>おお</sup>大きく<sup>く</sup>う<sup>な</sup>ずく<sup>ぼく</sup>僕<sup>ぼく</sup>。

「それでは—— <sup>こと</sup>お言葉<sup>ばあま</sup>に甘<sup>あま</sup>えて—— <sup>いただきます</sup>いただきます」

溜<sup>る</sup>音<sup>ね</sup>は、<sup>お</sup>おず<sup>お</sup>ずと、マスクを<sup>はず</sup>外<sup>はず</sup>すと—— <sup>つか</sup>フォーク<sup>つか</sup>を<sup>つか</sup>使<sup>つか</sup>い、<sup>もくもく</sup>黙<sup>もくもく</sup>々と<sup>た</sup>ケーキ<sup>た</sup>を<sup>はじ</sup>食<sup>はじ</sup>べ始めた。 <sup>もぐもぐもぐ</sup>モグモグモグ…

しばらくすると、<sup>かのじよ</sup>彼女は<sup>いそ</sup>、<sup>つ</sup>急<sup>つ</sup>いで<sup>くち</sup>マスク<sup>ひら</sup>を着<sup>つ</sup>けてから<sup>くち</sup>口<sup>ひら</sup>を開<sup>ひら</sup>いた。

「——おいしーい！ とっても、おいしいよ！ ——シアワセ♡♪」

「よかった♪ “スペシャル・デラックス・アイス・オン・フルーツ・イン・ヨーグルト・オン・パンケーキ・フォー・溜<sup>る</sup>音<sup>ね</sup>” と呼<sup>よ</sup>んでくれたまえ♪ <sup>アッハッハッ!</sup>アッハッハッ！」

## 208

ケーキを<sup>た</sup>食<sup>く</sup>べ終<sup>お</sup>えて<sup>まんぞく</sup>満足<sup>る</sup>して<sup>か</sup>くつろ<sup>か</sup>いでいる<sup>る</sup>溜<sup>ね</sup>音<sup>ね</sup> with <sup>か</sup>加<sup>か</sup>湿<sup>しつ</sup>マスク  
& <sup>ぼく</sup>僕<sup>ぼく</sup> with <sup>か</sup>加<sup>か</sup>湿<sup>しつ</sup>マスク——。

「<sup>よ</sup>カゼ<sup>ぼう</sup>の<sup>ちりよう</sup>予<sup>やくだ</sup>防<sup>だ</sup>や<sup>じゅうぶん</sup>治<sup>すいみん</sup>療<sup>きゅうよう</sup>に<sup>てきど</sup>役<sup>てきど</sup>立<sup>すいぶん</sup>つ<sup>せつしゆ</sup>こととして、<sup>ほしつ</sup>十分<sup>ほおん</sup>な<sup>て</sup>睡<sup>て</sup>眠<sup>て</sup>や<sup>あ</sup>休<sup>あ</sup>養<sup>あ</sup>、<sup>あ</sup>適<sup>あ</sup>度<sup>あ</sup>  
な<sup>えいようせつしゆ</sup>栄<sup>ぜつしゆ</sup>養<sup>ぜつしゆ</sup>摂<sup>てきど</sup>取<sup>すいぶん</sup>や<sup>せつしゆ</sup>絶<sup>ほしつ</sup>食<sup>ほおん</sup>、<sup>て</sup>適<sup>て</sup>度<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>水<sup>あ</sup>分<sup>あ</sup>摂<sup>あ</sup>取<sup>あ</sup>、<sup>あ</sup>保<sup>あ</sup>湿<sup>あ</sup>や<sup>あ</sup>保<sup>あ</sup>温<sup>あ</sup>、<sup>あ</sup>手<sup>あ</sup>洗<sup>あ</sup>いや<sup>あ</sup>マ<sup>あ</sup>スク

の着用…は、もちろん挙げられるけど、さらに、ほどよくリラック  
スしてストレスをためすぎないことも挙げられるよ」と褒め。

「そう聞くわよね。それって、どうしてなのかしら？」と彼女。

「適度にストレスが解消されているおかげで、免疫細胞たちの働き  
が、ほどよく保たれるからだよ。

それは、免疫細胞たちの数や性質がほどよく保たれるからだけで  
なく、末梢の血流がアップして、それらの体の中の分布がほどよく  
保たれるからでもある——」

「ふーん。——免疫細胞ってさあ、カゼのウイルスとかを、やっつ  
けてくれるんでしょ？」

「そうそう、その通り。それらの免疫細胞たちは、いろんな種類で  
構成されていて——協力し合いながら、カゼのウイルスとかから、  
体を守ってくれているんだ」

「ウン——」

「だから、免疫力をほどよく保ってくれるような“過剰なストレス  
の解消”なら、どれもカゼの対策として有効だと思うよ」

「例えば？」

「例えば、もし疲れてヘトヘトだったら、なおさら、十分な睡眠や  
休養が有効だろうし——もし大好きな趣味を楽しみたいのを我  
慢し続けて欲求不満がたまっていたら、その趣味を楽しむことが  
有効だろうよ」

「つまり、個人差がありうるのね」

「そう。そういう意味では、カゼ対策にも相性がありうるんだよ」

「——ウン」

「——そうそう、もし、<sup>かど</sup>過度の<sup>くうふく</sup>空腹のせいで、フラフラしていたり、  
<sup>ちから</sup>力が出なくなっていたり… <sup>たいちょう</sup>体調がおかしくなっているならば、<sup>てきど</sup>適度  
 に<sup>えいよう</sup>栄養を<sup>ほきゆう</sup>補給することが<sup>ゆうこう</sup>有効だろうよ」

「うん♪ ああ、おいしかったあ♡ 私、<sup>わたし</sup>幸せ者<sup>しあわせもの</sup>だわ。<sup>まんぞく</sup>満足、<sup>まんぞく</sup>満足」

「それから、これ——」<sup>ぼく</sup>僕は<sup>ちい</sup>ポケットから<sup>ちい</sup>小さな<sup>はこ</sup>箱を<sup>と</sup>取り<sup>だ</sup>出した。

「なあに？」

「ちょっと<sup>はや</sup>早いけど、<sup>たんじゆうび</sup>誕生日プレゼント——」<sup>い</sup>そう言<sup>い</sup>いながら、  
 その<sup>ちい</sup>小さな<sup>はこ</sup>箱を<sup>かのじよ</sup>彼女に<sup>さしだ</sup>差し出した。

「え？」<sup>かのじよ</sup>彼女は、<sup>う</sup>おずおずと<sup>う</sup>受けとった。「——<sup>なか</sup>ねえ、<sup>み</sup>中を見ても  
 いい？」

「ああ、もちろん」

## 209

<sup>る</sup>溜音は、<sup>はこ</sup>箱を<sup>あ</sup>開けた。

その<sup>なか</sup>中から<sup>かお</sup>顔をのぞかせたのは、<sup>まる</sup>丸みを<sup>お</sup>帯びた<sup>きんぞく</sup>金属の<sup>りんかく</sup>輪郭に、<sup>あわ</sup>淡  
 い<sup>いろ</sup>ピンク色の<sup>ほうせき</sup>宝石がはめ込まれている<sup>ちい</sup>小さなペンダントだった。

「うわ～、かわいい～。——ありがとうございます。うれしい」

「——ごめんよ」

「え？ <sup>なに</sup>何が？」

「——。だから——<sup>しけん</sup>試験だけでなく、<sup>ぼく</sup>僕のせいもあって、<sup>す</sup>ストレ  
 スフルさが<sup>じよちよう</sup>助長されて—— そのせいで、<sup>かぜ</sup>カゼをひいてしまったの  
 かなって<sup>おも</sup>思ったから」

「——」

「最近、確かに“究極の意味”探しに夢中になりすぎて、きちんと力になってあげていなかったような気がする。こっちは力をいっぱいもらっていたのに。——だから、ごめん」

しばらくの間、瑠音は視線を外していた。

かと思うと、口を開いた。「——フッフ♪ お互い様よ」

「え？」

「私も、あなたから、いっぱい力をもらっていたわ。あなたの存在が、つらい試験勉強を乗り越えるための心の支えになっていた——。有意義なことに熱中して、少年のようにイキイキしているあなた——。そんなあなたが—— 好き」

「——」 . . .

「早いとこ、発見しちゃって？ 究極の意味をサクッと見つけて、私を早く安心させて？ 私が、いっぱい、いっぱい笑っていられるように。——アハッ♪ クヨクヨしているより、気持ちよく笑っている方が、免疫力って、ほどよく保たれているんでしょ？」

「ああ、まあ——」

「——ああ、スペシャル・パンケーキおいしかったあ！ こんなに幸せになれるのなら、年に10回くらいカゼひきたいよ〜♪」

「——ってうか、このパンケーキには、パースデーケーキの意味があるんだぜ」

「え！？ 誕生日がくるだけでも、このケーキを食べられるの？

だったら、年に11回も食べられるってことよね？ やったあ♪」

「よ〜し、こうなったら潔く腕によりをかけて、ケーキを作りまく

るぞ〜！」<sup>きあ</sup> 気合いを入れるしぐさをしながら<sup>い</sup>言った。

「アハハハッ！♪」 とびっきりの<sup>え</sup>笑みがこぼれているのがマスク  
越<sup>こ</sup>しでも、はっきりわかった。

## 210

## 音楽イン ♪ Reconstruction

それから<sup>ぼく</sup>僕は、<sup>だいがく</sup>大学の<sup>あいま</sup>ノルマの<sup>ぬ</sup>合間を縫<sup>ぬ</sup>って、<sup>しら</sup>調べて、<sup>しら</sup>調べて、  
<sup>しら</sup>調べて——<sup>まな</sup> 学<sup>まな</sup>んで、<sup>まな</sup> 学<sup>まな</sup>んで、<sup>まな</sup> 学<sup>まな</sup>んで——<sup>ほ</sup> 掘<sup>ほ</sup>り下<sup>さ</sup>げて、<sup>ほ</sup> 掘<sup>ほ</sup>り下<sup>さ</sup>げ  
て、<sup>ほ</sup> 掘<sup>ほ</sup>り下<sup>さ</sup>げて——<sup>かんが</sup> 考<sup>かんが</sup>えて、<sup>かんが</sup> 考<sup>かんが</sup>えて、<sup>かんが</sup> 考<sup>かんが</sup>え抜<sup>ぬ</sup>いたんだ。

<sup>ほん</sup> 本<sup>や</sup>屋<sup>ほん</sup>さんの本——

<sup>と</sup> 図<sup>しょ</sup>書<sup>かん</sup>館<sup>ほん</sup>の本——

ノート——

メモ<sup>よう</sup>用<sup>し</sup>紙——

パソコン——

…

<sup>かつよう</sup> を活<sup>かんが</sup>用<sup>かんが</sup>しながら考<sup>かんが</sup>え——

<sup>き</sup> 着<sup>が</sup>替<sup>かんが</sup>えながら考<sup>かんが</sup>え——

<sup>た</sup> 食<sup>かんが</sup>べながら考<sup>かんが</sup>え——

<sup>ある</sup> 歩<sup>かんが</sup>きながら考<sup>かんが</sup>え——

<sup>か</sup> 書<sup>かんが</sup>きながら考<sup>かんが</sup>え——

<sup>ゆ</sup> 湯<sup>かんが</sup>ぶねにつかりながら考<sup>かんが</sup>え——

シャワーを<sup>あ</sup>浴<sup>かんが</sup>びながら考<sup>かんが</sup>え——

ベッド<sup>じょう</sup>上<sup>に</sup>で、日<sup>に</sup>中<sup>ちゅう</sup>、仰<sup>あ</sup>向<sup>え</sup>けになりながら考<sup>かんが</sup>え——

ベッド上で、夜中、入眠しながら考え——

ベッド上で、起床前、朝の陽光を浴びながら考え——

…

クリスマスが過ぎ——

お正月も過ぎ——

バレンタインデーも過ぎ——

そのまま雪解けの季節も過ぎ——

そして、桜が咲き始める季節の、ある日曜日——

ついに、この図のナゾが解けたと思えるほどの成果に達したんだ。

音楽終了 ♪ Reconstruction

その成果に達した、喜びというか、気持ちよさというか、達成感  
 というか…その感動は半端じゃなかった。

音楽イン ♪ Joy of Life

自転車を飛ばし——

真っ先に、溜音のアパートに、たどり着いた。

「ついに、この図のナゾが解けたよ！ すっげえ、うれしい！

ハア、ハア…」

「ええ？ すごーい！ ねえ、ねえ、私にも早く答えを教えて？」

「ああ、もちろん。ハア、ハア… ちょっと待ってくれ。ハア、ハア  
 … ——あれえ？」 ヨロリとバランスをくずした僕は、そのまま、  
 ひざまずいてしまった。

「大丈夫？」

「ああ、大丈夫、大丈夫！

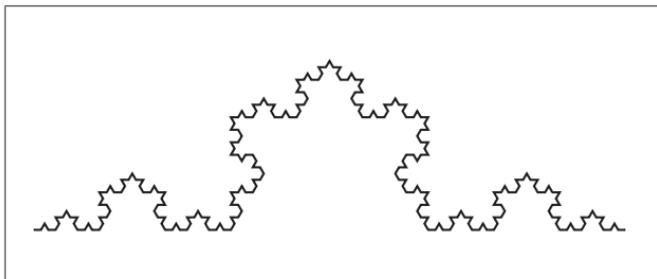
——自転車を飛ばしすぎちまって。アッハッハッ！」

音楽 ♪ Joy of Life 211 に続く

## 211

ひといき  
一息ついてから、その成果の披露を始めた。

まず、おじいさんにもらった図の説明から——。



「この図形はコッホ曲線と呼ばれているんだ。これはフラクタルの一種で、フラクタルとは“自己相似性”を持つ存在のことさ」と僕。

「——自己、ソウジセイ？」と溜音。

「そう。自己、相似性」

「——自分で自分を、きれいに掃除する性質？」

「その掃除でなくて、“相互に、サイズを超えて似ている”という意味の相似さ。

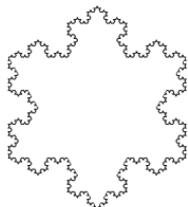
つまり、自己における、内側の部分と外側の全体が、お互いに、サイズを超えて似ているという性質こそが、自己相似性なんだよ」

「——へエー」

「この“自己相似性”を持っている例は、自然界に、いっぱいあるんだよ。例えば、雲のモクモク、海岸線のギザギザ、山のデコボコ、川や樹木の枝分かれ、雪の結晶——。どれも、自己における、内側の部分と外側の全体が、相似になっているのさ。

例えば、このコッホ曲線を3つ組み合わせてできるコッホ雪片

も、どことなく本物の雪の結晶っぽいつしょ？」



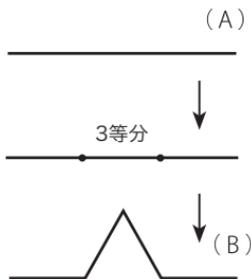
「本当だ。不思議——」

「これが本物の雪の結晶っぽいの、自然界にある本物の雪の結晶が“自己相似性”を持っているからこそなんだ」

「へえー」

「この自己相似性は、コッホ曲線の作り方を見れば、より理解しやすくなるはずだよ」

僕はメモ用紙を広げて、ペンを持った。「まず、1本の線があるとする(A)。次に、その線を3等分し、その真ん中の線分だけを2本にして最終的にトンガリ山を作る(B)」



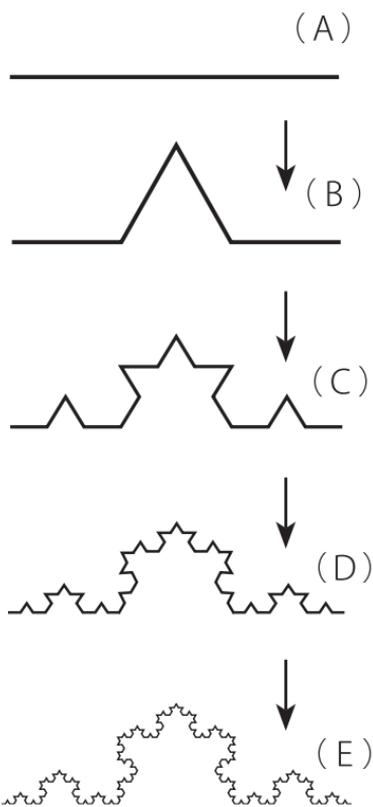
「あっ！ 第7フレームと似ているね？」

「そうそう。そうなんだ。」

それで、コッホ曲線を作るためには、この作業をずうーっと繰り返せばいいんだよ」

「ずうーっと？」

「そう。ずうーっと——



——ほら！ ここまで来ると、おじいちゃんに、もらった<sup>ず</sup>図<sup>おな</sup>と同じになる」

「あつ、<sup>ほんとう</sup>本当だ！」

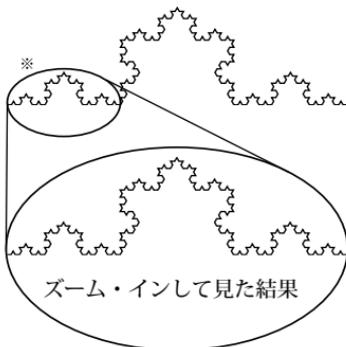
音楽 ♪ Joy of Life 212 に続く

## 212

「このようにして、フラクタルの1例であるコッホ曲線<sup>きよくせん</sup>ができてい  
るおかげで、不思議<sup>ふしぎ</sup>でおもしろいことが起こるんだよ」と僕<sup>ぼく</sup>。

「不思議<sup>ふしぎ</sup>でおもしろいこと？」と溜音<sup>るね</sup>。

「そう。想像<sup>そうぞう</sup>してみたい<sup>ほ</sup>んだけど、  
たとえば、この部分<sup>ぶぶん</sup>をズーム・インして、  
詳しく見たとするよね？」図<sup>ず</sup>の左側<sup>ひだりがわ</sup>の  
一部<sup>いちぶ</sup>※を指<sup>ゆび</sup>で囲<sup>かこ</sup>いながら言<sup>い</sup>った。



「うん」

「すると、あら不思議<sup>ふしぎ</sup>！

——そこにあるのは、元<sup>もと</sup>と同じ形<sup>おなじかたち</sup>なのさ！」

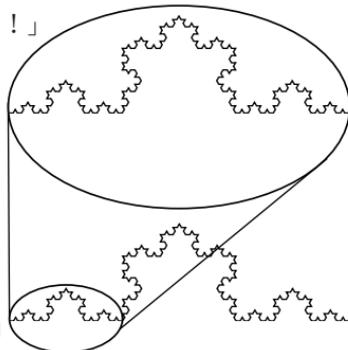
「うーん。——。——あつ、そうよ！

ずうーつと繰り返<sup>くえい</sup>返<sup>かえ</sup>すんだもんね。

アハッ♪ おもしろい♪」

「だろだろ？ もちろん、逆<sup>ぎやく</sup>も成<sup>な</sup>り立<sup>た</sup>つ。

ある全体<sup>ぜんたい</sup>をさらにズーム・アウトして  
大ざっぱ<sup>おおざっぱ</sup>に見ても、元<sup>もと</sup>と同じ形<sup>おなじかたち</sup>になるよ」



「はあー！」

ズーム・アウトして見た結果

「で、このような性質<sup>せいしつ</sup>、“ある部分<sup>ぶぶん</sup>をズーム・インして見ても同じ形<sup>おなじかたち</sup>、  
ある全体<sup>ぜんたい</sup>をズーム・アウトして見ても同じ形<sup>おなじかたち</sup>”という性質<sup>せいしつ</sup>こそが、  
自己相似性<sup>じこそうじせい</sup>の、より厳密<sup>げんみつ</sup>な意味<sup>いみ</sup>なのさ。

つまり、フラクタルとは、厳密<sup>げんみつ</sup>には、このズーム・インしてもズーム・  
アウトしても同じ形<sup>おなじかたち</sup>があるという意味<sup>いみ</sup>の自己相似性<sup>じこそうじせい</sup>を持つている存<sup>ぞん</sup>  
在<sup>ざい</sup>のことなのさ」

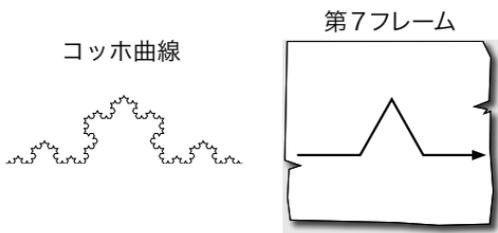
「ふーん。——そうすると、<sup>げんみつ</sup>厳密には、このズーム・インしてもズーム・アウトしても<sup>おな かたち</sup>同じ形があるという意味の自己相似性を持っている存在<sup>そんざい</sup>のことであるフラクタルが、<sup>しぜんかい</sup>自然界で、さまざま<sup>み</sup>見つけられるのね？」

「そうさ。<sup>たと</sup>例えば、<sup>くも</sup>雲の<sup>かたち</sup>モクモクの形。あの一<sup>いち</sup>部を、ズーム・インして見ても、やっぱり<sup>どうよう</sup>同様なモクモクの形がある。もちろん、<sup>さか</sup>逆にズーム・アウトして見ても、<sup>どうよう</sup>同様なモクモクの形。

<sup>たと</sup>例えば、<sup>かいがんせん</sup>海岸線の<sup>かたち</sup>ギザギザの形。あの一<sup>いち</sup>部を、ズーム・インして見ても、ズーム・アウトして見てもやっぱり<sup>どうよう</sup>同様なギザギザの形がある。それは、<sup>やま</sup>山の<sup>かせん</sup>デコボコ、<sup>じゆもく</sup>河川や<sup>えだわか</sup>樹木の<sup>ゆき</sup>枝分かれ、<sup>けつしょう</sup>雪の<sup>おな</sup>結晶…  
どれも<sup>おな</sup>同じなんだよ」

「ええ、そうね」

「それで—— <sup>きよくせん</sup>コッホ曲線と<sup>だい</sup>第7フレームを<sup>く</sup>繰り返して<sup>かえ</sup>見<sup>み</sup>比<sup>くら</sup>べたのさ。



そしたら、ひらめいたんだ。

きっと、<sup>だい</sup>第7フレームも自己相似性<sup>じこそうじせい</sup>を持っていて、フラクタルの1例<sup>れい</sup>なのだろうって——。

それで、<sup>かてい</sup>そのように<sup>ちしき</sup>仮定しながら、<sup>ぶんけん</sup>さまざまな知識や<sup>ないよう</sup>文献の内容、  
さまざま<sup>たいけん</sup>な体験にあてはめてみたら、まさに<sup>まじ</sup>そうだったのさ！」

「ええ!？」

## 213

音楽イン ♪心地よき日々 Comfortable Days

「まずは、人間レベル——

それは、“認識して、決めて、動かして”などの3つのステップの流れ。大学1年生のときに僕らが一緒に、さまざま挙げたの例にあてはまるレベルのことさ。覚えている？」と僕。



「ええ、よく覚えているわ」と溜音。

「それで、ここからは、この“3つのステップの流れ”のことを、シンプルに“3ステップ”と呼ぶことにするよ。その方が、より正確で便利だけでなく、カッコいいから」

「フフッ。そうね」

「それで、第7フレームが、自己相似性を持っているフラクタルの1例であるということは、この人間レベルの3ステップからズーム・アウトして見ても、ズーム・インして見ても、同じような3ステップがあるってことなんだよ。

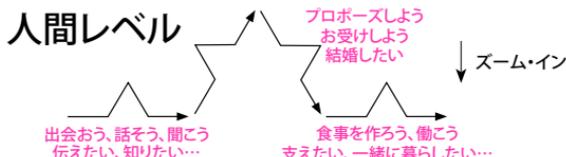
例えばズーム・アウトして見れば、そこにあるのは人間社会レベルの3ステップだね」

「人間社会レベル——」

「そう。——その、いい例の1つが、ふつうの結婚さ。

例えば、“まず、ふたりが出会って、お互いに知り合い、次に、お互いに賛成し合って合意に至り、その結果、実際に結婚して家庭を築く——” そのような3ステップのことだよ。

プチ・マップでは、次のようになるよ。

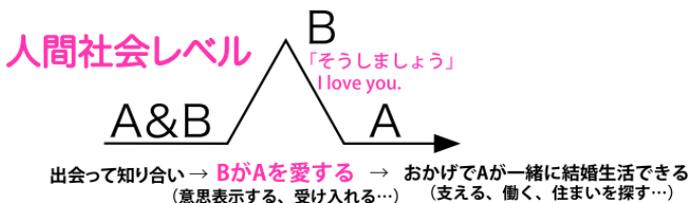
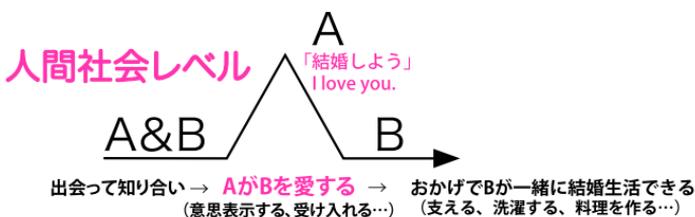


これだと、ときに周囲の賛成や反対が関わることも説明できる」

「ふうーん。

そうすると、人間社会レベルにおいても微妙な比率関係で繰り返されている様子を説明できるのね？」

「そうだね。ただ、そのような、やや複雑な説明ができる一方で、結婚の本質は、次の2つの単純な流れであり続けているんだよ」



「結婚は、お互い様なのね」

「そう。しかも、ここにあるのは、コンパルンクルの“ラブラブになつてね”とも関連している『Love - Love の関係』でもある」

「『Love - Love の関係』——」

「そう。この『Love - Love の関係』は、ありがたいことでもあるのさ。なぜって、人間関係は多様で、ときに片思いや一方通行のような『Love - No Love の関係』も、あるいは、ときに互いに嫌合うような『Hate - Hate の関係』もありうるのだから。

そういう意味で、『Love - Love の関係』を築くことは、前に君が指摘してくれた“社会的なハードルを乗り越えること”にも相当しているんだよ。なぜなら、その本質部分は、例えば——

“貴校への私の入学を望みます。本校へのあなたの入学を望みます”

“貴社への私の就職を望みます。弊社へのあなたの就職を望みます”

“私のオリンピック出場を望みます。あなたのオリンピック出場を望みます”… のように理解できるから。

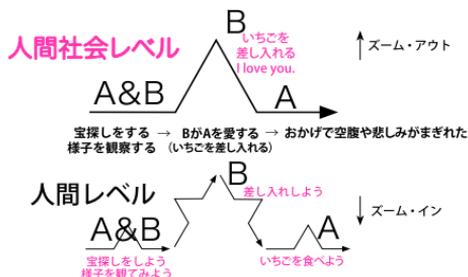
それに、『Love』だと少し大きさに思えるけれど、より一般的に、  
“あいさつ、優しさ、配慮、いたわり、手伝い、励まし、応援、支持、めぐみ、フルーツ…” を含む『For』の方向の言動を『Love』と見なせる。だから、一般的な『For - For の関係』は、『Love - Love の関係』であると見なせるのさ」

「ふーん。そうすると—— ほかにもいっぱいありそうじゃない？  
『For』の方向の言動としての『Love』に基づいた人間社会レベルの3ステップスって——」

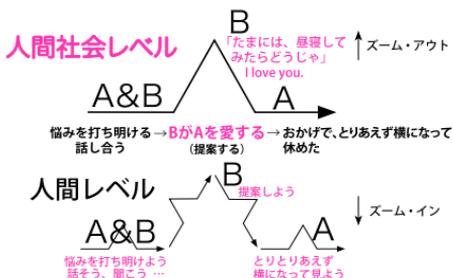
「そうなんだよ。いっぱいある」

## 214

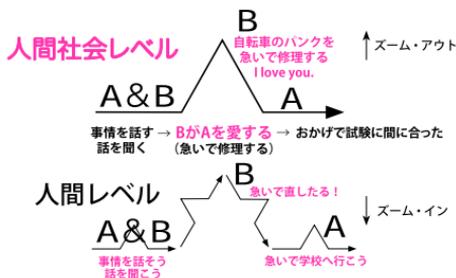
「例えば、おじいちゃんがいちごを食べさせてくれたおかげで、僕の空腹や悲しみがまぎれたとか——。



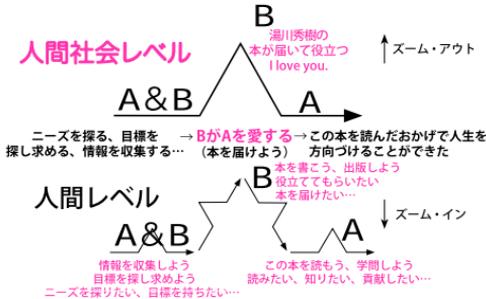
それに、おじいちゃんの“たまには昼寝してみたらどうじゃ”という提案のおかげで、とりあえず横になって休めたとか——。



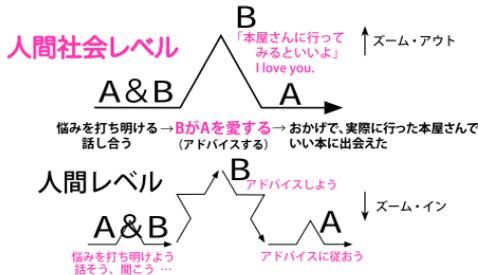
それに、自転車屋のおんちゃんがパンクを急いで修理してくれたおかげで、僕らが試験に間に合ったとか——。



それに、本を通じて湯川秀樹に出会えたおかげで、ライフ育ての  
方向づけができたとか——。

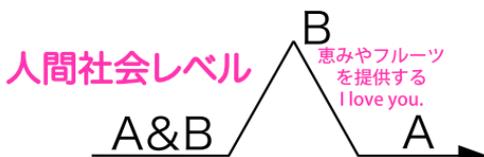


それに、“本屋さんに行ってみた方がいいよ”という君のアドバイスの  
おかげで、実際に行った本屋さんでいい本に出会えたとか——。



このような「差し入れや提案、修理、書籍、アドバイス…」などの  
恵みやフルーツを介した流れも、『For』の方向の言動としての  
『Love』に基づく人間社会レベルの3ステップすだと言える」  
「『Love』——」 そうつぶやいた瑠音の頬が、淡い桜色に見えた。  
「——そう。この『For』の方向の言動としての『Love』は、本当  
に、さまざまあるのさ。

この意味で、世の中には、さまざまな愛があふれているのさ。  
たとえば、次のような例も挙げられる」



- ニーズを探る、情報を収集する → **BがAを愛する** → おかげで生活できる、助かる  
 希望・事情を話す（聞く）… (恵みやフルーツを提供する) 楽しめる、元気になる…
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **商品を提供する** → おかげで生活できる  
 希望・事情を話す（聞く）… (農畜水産物、工業製品、お店…) おかげで生きられる…
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **サービスを提供する** → おかげで通学・通勤できる  
 希望・事情を話す（聞く）… (運輸、通信、レジャー…) おかげで電話できる  
 おかげで楽しめる…
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **ライフラインを提供する** → おかげで生活できる、  
 希望・事情を話す（聞く）… (水道、電気、ガス…) おかげで生きられる…
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **学問の成果を提供する** → おかげで便利な生活ができる、  
 希望・事情を話す（聞く）… (科学技術、知恵…) おかげで助かる…
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **情報を提供する** → おかげで知恵が得られる  
 希望・事情を話す（聞く）… (TV番組、新聞、ネット、書籍…) おかげでよい選択ができる…
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **作品を提供する** → おかげで元気になれる  
 希望・事情を話す（聞く）… (映画、ドラマ、舞台、ライブ おかげで楽しみが増える…  
 音楽、歌、詩、絵、写真…)
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **教育を提供する** → おかげで能力が開花する  
 希望・事情を話す（聞く）… (幼稚園、小学、中学、高校、 おかげで人生が育まれる  
 大学、専門学校… おかげでチャンスが広がる…  
 入園・入学を許可する)
- 
- ニーズを探る、情報を収集する → **企業活動を提供する** → おかげで多くの人々が生活できる  
 希望・事情を話す（聞く）… (社会に貢献する、雇用を創出する、 助かる、楽しめる、元気になる、おかげで  
 人材(ヨリダー、マネージャー…)を採用し報酬 働ける、適切にリード・マネージできる、  
 を支払う、利益を出しながら資金を返す) おかげで投資活動を継続できる…

こうじょう じてんしゃ つく かがたが わたし つうがく  
 「工場<sup>こうじょう</sup>で自転車<sup>じてんしゃ</sup>を作<sup>つく</sup>ってくださる方々<sup>かたがた</sup>のおかげ<sup>わたし</sup>で私たち<sup>つうがく</sup>の通学ライ  
 フ<sup>な</sup>が成<sup>な</sup>り立<sup>た</sup>つとか、果物<sup>くだもの</sup>や野菜<sup>やさい</sup>や穀物<sup>こくもつ</sup>などを育<sup>そだ</sup>ててくださる農家<sup>のうか</sup>の  
 方々<sup>かたがた</sup>のおかげ<sup>わたし</sup>で私たち<sup>しよくせいかつ</sup>の食生活<sup>な</sup>が成<sup>な</sup>り立<sup>た</sup>つとか、さまざま<sup>せいひん</sup>な製品<sup>せいひん</sup>や  
 サービス<sup>ていきよう</sup>を提供<sup>かたがた</sup>してくださる方々<sup>かたがた</sup>のおかげ<sup>わたし</sup>で私たち<sup>わたし</sup>の豊<sup>ゆた</sup>かな生活<sup>せいにかつ</sup>  
 が成<sup>な</sup>り立<sup>た</sup>つとか… 含む<sup>な</sup>誰<sup>な</sup>かの恵<sup>めぐ</sup>みやフルーツ<sup>う</sup>を受け<sup>と</sup>取<sup>と</sup>ってエン  
 ジョイ<sup>かてい</sup>する過程<sup>かてい</sup>が、どれも『For』<sup>ほうこう</sup>の方向<sup>ほうこう</sup>の言動<sup>げんどう</sup>としての『Love』  
 に基<sup>もと</sup>づく人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>レベル<sup>れい</sup>の3ステップ<sup>れい</sup>スの例<sup>れい</sup>だよってことは――

世の中には、本当に、さまざまな愛があふれているのね」

「その通りさ。僕らも、恵みやフルーツという『For』の方向の言動としての『Love』を、いつか世の中で与えられるはずなんだけどね。

——ってどうか、僕らは、恵みやフルーツなどの『For』の方向の言動としての『Love』を与えているときがあるんだよ。

受け取ると同時に——。すでに——」

「え？」

音楽 ♪心地よき日々 Comfortable Days 215 に続く

## 215

「例えば、お店に並んだ果物や野菜や穀物を、お金を支払って買うことは、めぐりめぐって、農業を営んでくださる方々、農産物を運送してくださる方々、それをお店で売ってくださる方々に、恵みやフルーツに相当する何かを与えることにつながっている——。

それは、例えば、お店に並んだ「自転車、本、CD、ノート、鉛筆、消しゴム…」を購入するときも同じだよ」と僕。

「あっ、そうか——。お金は、いずれ新たな“恵み&フルーツ”の交換に至りうるから、お金を支払って何かを買うことが間接的に恵みやフルーツを与えていることになりうるのね？」と瑠音。

「その通りさ。

一方で、すでに、恵みやフルーツに相当する何かそのものを直接与えることによって、僕らは人間社会レベルの『For』に相当する

『Love』をお返ししているときもある。

例えば、感謝、応援、支持、励まし、ファンレター、オマージュ、作品、ちえ、アイデア、ヒント…を示すことも、恵みやフルーツを直接与えることに相当していると思うよ。

だから、恵みやフルーツに相当する何かを、将来それらと交換できるお金を介して間接的に与えることは、人間社会レベルの『For』に相当する『Love』をお返しすることの一部にすぎないはずさ。

いずれにしろ、受けとると同時に、こちらからお返しする『For』の方向の言動としての『Love』についても、多々、例を挙げられる

(右ページ図)

「つまり、私たちは、さまざまな形や言葉で、恵みやフルーツを与えているのね。すでに——」

「そうさ。こういった恵みやフルーツの与え合いの関係こそが、人間社会レベルの『For』に相当する『Love』の与え合いの関係——恵み - 恵みの関係、フルーツ - フルーツの関係、『For』 - 『For』の関係、つまり、『Love - Love の関係』なのさ」

「アハッ♪ 相思相愛の関係は、ふつうの恋愛関係だけに限らないのね——」

「そうだね。しかも、片想いや一方通行も恋愛関係だけに限らない。——だから、『Love - Love の関係』を構築できるかどうかは、恋愛関係にとってのみならず、さまざまなフルーツや恵みを生み出したり、提供したり…を含むあらゆる活動にとっても、存続するかどうかを決める重要なカギの1つなんだと思うよ」

「そうね。おもしろーい♪」

音楽フェード・アウト ♪心地よき日々 Comfortable Days



- 恵み・フルーツが世に出る → **AがBを愛する** → おかげで恵み・フルーツを再生産・再提供できる  
 (お試し、体験、公開) (恵みやフルーツを評価する) おかげで経営を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **商品を購入する** → おかげで商品を再生産できる  
 (お試し、体験、公開) (代金を支払う、感謝する、応援する、支持する…) おかげで経営を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **サービスを利用する** → おかげでサービスを提供し続けられる  
 (お試し、体験、公開) (利用料を払う、感謝する、応援する、支持する…) おかげでサービスを継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **ライフラインを利用する** → おかげでライフラインを提供し続けられる  
 (お試し、体験、公開) (利用料を払う、感謝する…) おかげで経営を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **学問の成果を利用する** → おかげで新たな学問の成果を再提供できる  
 (お試し、体験、公開) (特許料を払う、研究費を出す、感謝する、応援する、支持する…) おかげで学問を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **情報を利用する** → おかげで新たな情報を提供できる  
 (お試し、体験、公開) (利用料を払う、視聴率に反映される、感謝する、応援する、支持する…) おかげで経営を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **作品を鑑賞する** → おかげで新たな作品を提供・生産できる  
 (お試し、体験、公開) (映画、ドラマ、演劇、ライブ、音楽、歌、詩、絵、写真…を楽しむ、感謝する、応援する、支持する…) おかげで経営を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **教育を志望する** → おかげで新たな教育を提供できる  
 (お試し、体験、公開) (園児、児童、生徒、学生…教育費の支払い、感謝する、支援する…) おかげで経営を継続できる…  
 口コミ、宣伝…)
- 
- 恵み・フルーツが世に出る → **企業活動を利用する** → おかげで新たな企業活動を提供できる  
 (お試し、体験、公開) (人々が企業活動の利用料を払う、感謝する、応援する、励ます、投票する…) おかげで経営を継続できる  
 口コミ、宣伝…) 人材(能力、マンパワー)を届ける、就職を希望する  
 適切にリード・マネジメントする、資金を投入する…)

…

…

…

## 216

「それにしても、<sup>ほんとう</sup>本当に、いろいろあるね。

人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>レベルの3ステップスって——」と<sup>ね</sup>増音。

「そうだね。しかも、この人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>レベルの3ステップスは、ふたりだけのスケールから、何十億人<sup>なんじゅうおくにん</sup>が関わるスケールまで—— いわば、ローカルな人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>からグローバルな人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>まで、どんなスケールでも成立<sup>せいりつ</sup>しうるよ」と僕<sup>ぼく</sup>。

「それはつまり—— プライベートな人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>から全地球<sup>ぜんちきゅうてき</sup>的な人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>まで、家庭生活<sup>かていぜいかつ</sup>、育児<sup>いくじ</sup>、教育<sup>きょういく</sup>、学問<sup>がくもん</sup>、生産<sup>せいさん</sup>、エンターテイメント、サービス<sup>きぎょう</sup>、企業<sup>とうし</sup>、投資<sup>ふくし</sup>、福祉<sup>いりゆう</sup>、医療<sup>りつぼう</sup>、立法<sup>しほう</sup>、司法<sup>ぎょうせい</sup>、行政<sup>ふく</sup>…を含む社会的<sup>しかいてき</sup>な営み<sup>いとな</sup>は、人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>レベルの3ステップスの上で<sup>うえ</sup>繰り広げられているという意味<sup>いみ</sup>で、どれも同じ<sup>おな</sup>ってことなのね？」

「そうさ。——さらに、こういった社会的<sup>しかいてき</sup>な営み<sup>いとな</sup>のいずれにおいても、君<sup>きみ</sup>が指摘<sup>してき</sup>してくれたように、さまざまな要素<sup>ようそ</sup>が新た<sup>あら</sup>に関わって、微妙<sup>びみょう</sup>な比率<sup>ひりつかんけい</sup>関係<sup>うえ</sup>の上で<sup>く</sup>繰り広げられることが起<sup>お</sup>こりうる。

——例えば、誰<sup>たれ</sup>かさんの大学<sup>だいがく</sup>合格<sup>ごうかく</sup>とか？」

「——フッ♪ あれは、リアルな社会<sup>しゃかい</sup>現象<sup>げんしょう</sup>の一例<sup>いちれい</sup>だったのね」

「その通り！」

「そうすると—— 一見<sup>いつけん</sup>どんなに複雑<sup>ふくざつ</sup>に見える社会<sup>しゃかい</sup>現象<sup>げんしょう</sup>も、ある程度<sup>ていど</sup>、第7フレームで説明<sup>せつめい</sup>ついちゃうのかもね♪」

## 217

「第7フレームにおける、人間社会レベルの3ステップの意味は、第4フレームから第6フレームまでを考え合わせると、もっと、わかりやすくなるはずだよ。例えば、次のように——」と僕。



「——アハッ♪ 確かに、そうよね」と溜音。

「さらには、ある個人に着目するならば、次のようなことも言える。

ある個人は——

あるときは、

“話し合ったり、知り合ったり、相談したりして情報の収集や共有をする。

口コミやネット、広告などによって、何かを宣伝して世に広める。

就活したり、婚活したりして自身が世の中でデビューする。…”

という形で、第1ステップを担っていて——

あるときは、

“商品しょうひんやサービスさくひん、作品ていきょうを提供する。

商品しょうひんを買かったり、サービスりようを利用したり、作品さくひんを鑑賞かんしょうしたりする。

アドバイスおうえんしたり、応援たすしたり、助けたりして身近な誰かみ ちか だれを愛する。…”

という形で、第2ステップを支援さきしていて――

あるときは、

“商品しょうひんやサービスさくひん、作品ていきょうを提供されるおかげで生きる。

商品しょうひんを買かっていたり、サービスりようを利用りようしていたり、

鑑賞かんしょうしていただいたりはげを励みにしながら再び商品しょうひんやサービスさくひんや作品ていきょうを提供する。

アドバイスおうえんされたり、応援たすされたり、助けられたりふくを含めて、身近な人み ちか ひとに愛されながら生きる。…”

という形で、第3ステップを受け持っている――

そのようなことが言えるのさ」

「へえー。つまり、ある個人こじんは、人間社会にんげんしゃかいレベルの3ステップの中で、その位置い ちを変へん化させるのね？」

「そうさ。これら1つ1つも、れっきとした“ライフかたのあり方”の例れいなんだよ」

「ええ、そうね♪」

## 218

「人間レベルからズーム・アウトすると見える3ステップスが人間  
社会レベルだったけれど—— さっき言ったとおり、人間レベルから  
逆にズーム・インすると見える3ステップスもあるんだよ」と僕。

音楽イン ♪春 Spring

「それは、なあに？」と溜音。

「うん。それが、細胞社会レベルの3ステップスさ」

「サイボウ社会？」

「そう。細胞とは、頭<sup>あたま</sup>の先<sup>さき</sup>から足<sup>あし</sup>の先<sup>さき</sup>までの全身<sup>ぜんしん</sup>を構成<sup>こうせい</sup>する基本<sup>きほん</sup>単位<sup>たんい</sup>」  
のことで—— 感覚細胞<sup>かんかくさいぼう</sup>、神経細胞<sup>しんけいさいぼう</sup>、筋肉細胞<sup>きんにくさいぼう</sup>、免疫細胞<sup>めんえきさいぼう</sup>…を含  
め、およそ何百種類<sup>なんびやくしゆるい</sup>に及ぶ細胞<sup>さいぼう</sup>たちが、人間<sup>にんげん</sup>を構成<sup>こうせい</sup>しているんだよ」

「何百種類！？」

「そう。それで、ある個人<sup>こじん</sup>が持つ<sup>も</sup>ている細胞<sup>さいぼう</sup>の数は、何十兆個<sup>なんじつちようこ</sup>にも  
及ぶのさ」

「何十兆個！？」

「そう。それで、それらの細胞<sup>さいぼう</sup>の1つ1つは、ある決まった役割<sup>きやくわり</sup>——  
何百種類<sup>なんびやくしゆるい</sup>の中の1つ<sup>なか</sup>の役割<sup>やくわり</sup>——を果た<sup>は</sup>すように設定<sup>せつてい</sup>されていて、そ  
の設定<sup>せつてい</sup>に基づ<sup>もと</sup>いて生存<sup>せいぞん</sup>しているんだ。

——で、まずは、それが細胞<sup>さいぼう</sup>レベルだね」

「細胞<sup>さいぼう</sup>レベル——」

「そう。それで大切なポイント<sup>たいせつ</sup>は、1つ1つの細胞<sup>さいぼう</sup>が個々<sup>ここ</sup>に生存<sup>せいぞん</sup>  
しているだけではないってことさ」

「——あ！ もしかして、“恵<sup>めぐ</sup>みやフルーツ<sup>あ</sup>の与<sup>あ</sup>え合い”？」

「そう。その通りだよ。」

それは人間社会レベルの場合と同じなんだ。

循環の大部分を担う心臓や血管などを構成する細胞たち

呼吸の大部分を担う肺などを構成する細胞たち

運動を担う骨や筋肉などを構成する細胞たち

栄養の供給を担う胃腸などを構成する細胞たち

外界からのバリアを担う皮膚や粘膜などを構成する細胞たち

血液の浄化を担う腎臓などを構成する細胞たち

ホルモンの分泌を担う下垂体や副腎、性腺などを構成する細胞たち

情報の伝達を担う脳神経などを構成する細胞たち

免疫を担う血液などを構成する細胞たち

…

さまざまな種類の細胞どうしは、互いに恵みやフルーツを与え合  
いながら、支え合っているのさ」

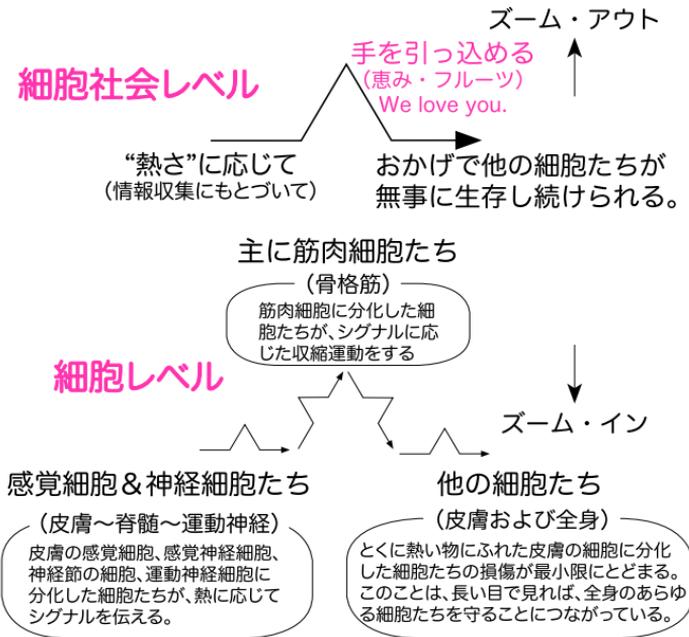
「——へえー」

音楽 ♪春 Spring 219 に続く

## 219

「細胞社会レベルの3ステップの一番わかりやすい、最も単純な  
例の1つは、“熱い物に手などがふれた際に思わず引っ込める反射”  
を介する過程だと思うよ。

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる——



つまり、ここにあるのは、

『<sup>あつ</sup>“熱さ”<sup>じょうほうしゅうしゅう</sup>』<sup>じょうほうしゅうしゅう</sup> についての情報収集

→ “<sup>て</sup>手<sup>ひ</sup>を<sup>こ</sup>引っ<sup>うんどう</sup>込<sup>め</sup>ると<sup>いう</sup>運動”<sup>めぐみ</sup> という恵み・フルーツ<sup>ていきょう</sup>の提供

→ おかげで皮膚の細胞を含むほかの細胞たちが生存し続けられる』

という細胞社会レベルの3ステップなんだよ」

「——そうすると、バースデーパンケーキ作りの際に、あなたが火傷してしまったことには、それほど深い意味があったのね」と溜音。

「そうそう、そうなのさ。それを見越して、あえて火傷してみせたのさ。って、そんなわけないだろ。アッハッハッ！」

「アハハッ♪」

音楽 ♪春 Spring 220 に続く



ベルの3ステップと、よく似ているね」と瑠音。

「そうだね。なんせ、3ステップが自己相似性を持つフラクタルだからね」

「そうすると—— いずれの細胞社会レベルの3ステップにおいても、お互いが、お互いのために、恵みやフルーツを提供し合っているのね？ 人間社会レベルの3ステップの場合と同様に——」

「そうさ。これらの細胞社会レベルのステップにおいても、『For』に相当する『Love』の与え合いの関係——恵み-恵みの関係、フルーツ-フルーツの関係、『For』-『For』の関係、つまり、『Love-Loveの関係』が成立しているのさ」

「アハッ♪ おもしろーい♪」

音楽 ♪春 Spring 221 に続く

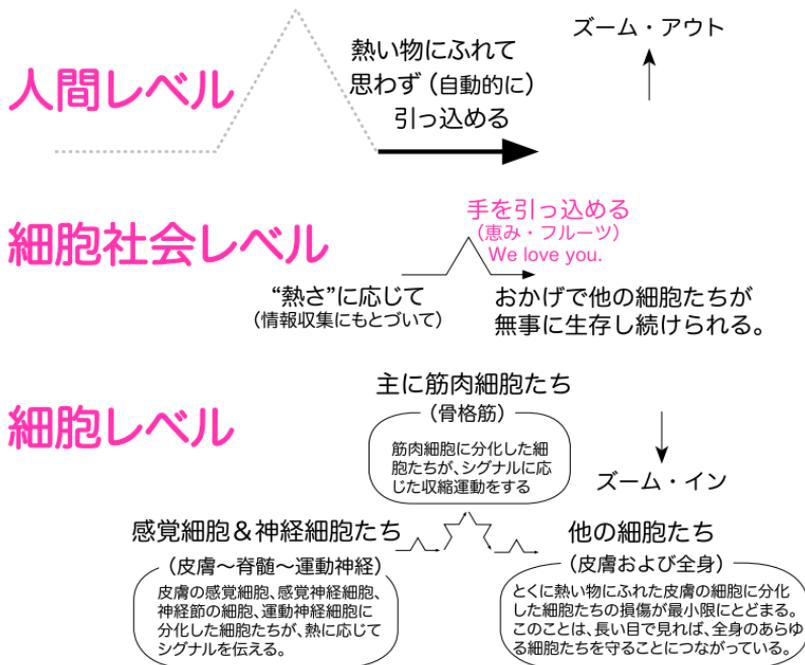
## 221

「細胞レベルと細胞社会レベルの关系到、人間レベルを考え合わせれば、さらにおもしろいことに気づくことができるよ」と僕。

「——え、どんなこと？」と瑠音。

「うん。“熱い物に手などがふれたときに思わず引っ込める反射”を介する過程の例がわかりやすいから、それで説明するよ。

それだと、次のようになるんだ。



この場合、細胞社会レベルの3ステップが、個々の細胞レベルからズーム・アウトして見ると同時に、人間レベルの第3ステップからズーム・インしても見えることになる

「ふーん。そうすると、この“反射”を含む過程においては——人間レベルの第1ステップと第2ステップ、例えば“認識して、決めて”が省略されていることになるのね？」

「そうなのさ！ このときは、“～しよう”の意志も“～したい”の欲求も関係せずに、いわば自動的に運動している」

「すごい！ これって、もしかして、ほかの“自動的に生じる現象”も、うまく説明できるってことじゃない？」

例えば——

しんぞう たかな  
心臓がドキドキ高鳴るとか

こきゅう  
呼吸がハアハアはずむとか

しんしん  
心身がリラックスするとか

す かんかく かんじょう わ  
“好き”という感覚や感情が湧くとか

し よつきゅう わ  
“知りたい”という欲求が湧くとか

あ よつきゅう わ  
“会いたい”という欲求が湧くとか …」

「そうだね。ほかにも——

あるものを見て、何かのイメージが連想されるとか

“のどが渴いている”という感覚が生ずるとか

“お腹が空いている”という感覚が生ずるとか

イライラして“やけ食いたい”という欲求が生ずるとか

緊張して“トイレに行きたい”という欲求が生ずるとか

暑くて汗をかくとか …

どれも、人間レベルの第1、第2ステップ、“認識して、決めて”

のプロセスが省かれたまま、自動的な細胞社会レベルの働きにもと  
づいて生じていると説明できる。

音楽 ♪春 Spring 222 に続く

## 222

「もちろん、知りたい、会いたい、食べたい、飲みたい、トイレに  
行きたい…という欲求が自動的に生じたからといって、必ずしも、  
すぐに実現できるとは限らなくて——」と僕。

「そうよね。状況に応じて—— 知るのを今はよそう、会うのを今

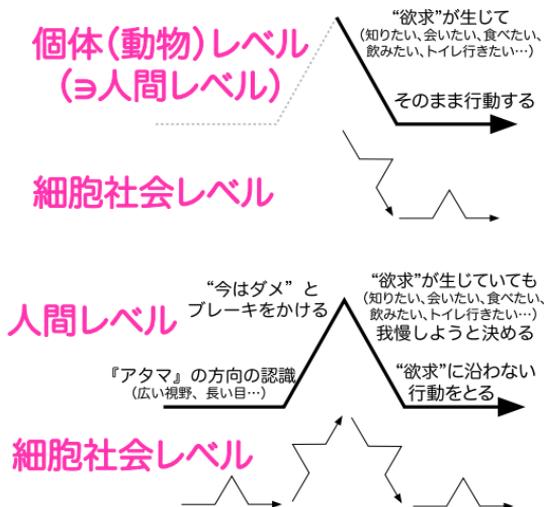
遠慮しよう、食べるのを今は我慢しよう、水分摂取を今は控えよう、トイレに行くのを今すぐはやめそう…と決めて、実現させない場面も多々あるわよね」と溜音。

「そうさ。それは行動をコントロールする意志の力のおかげなのさ」

「そうね。個人差があるだろうけれど——動物より人間の方が、そのコントロール力が大きいのは確かよね？」

「そうだね。その差は、広い視野や長い目を含む『アタマ』の方向の認識力の違いを反映しているはずだよ。

このあたりの違いを図で示せば、例えば、次のようになるよ」

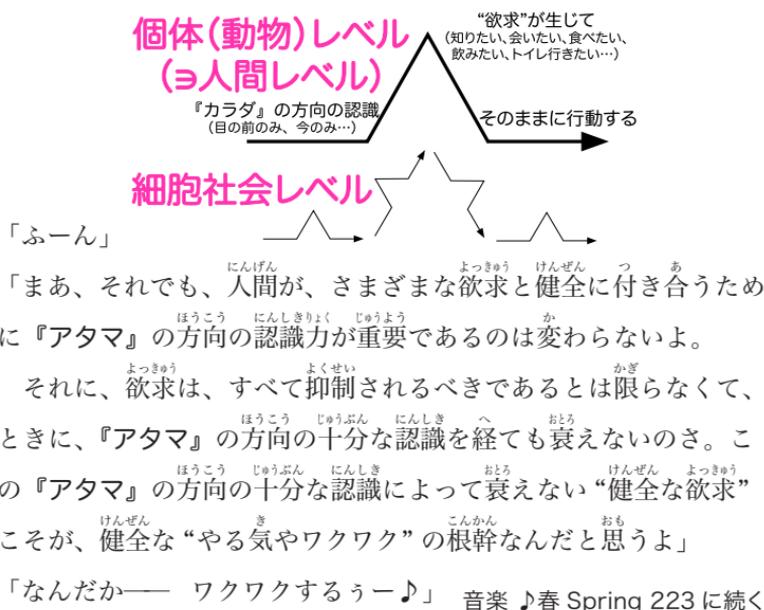


「欲求のままに行動している例では、『アタマ』の方向の認識のステップを担う、人間レベルを含む個体レベルの第1ステップが省略されているのね？」

「そうさ。もちろん、人間も動物も、第1ステップが完全に省略されるのは稀で、実際は『カラダ』の方向の認識のステップが関わっ

ていることが多いと思うよ。

——本能ほんのうってやつだね」



## 223

「そうすると—— “意識いしきしてやることと意識いしきせずにやることかんの関係けい”についても、うまく説明せつめいできるわよね？」 瑠音るねらしい提案ていあんがなされた。

「そうなんだよ。できる。——そのための、いい例れいの1つが、りつ“立位い しせい たもの姿勢おもを保つこと”だおもと思うよ」と僕ぼく。

「え？ ——どうということ？」

「うん。そもそも人間にんげんは、立たった姿勢しせいで料理りょうりをしたり、立たった姿勢しせい

で本を読んだり、立った姿勢で話したり…わざわざ意識しなくても立ってられる。でも、それって、よく考えてみると不思議でない？

だって、人間の体って、こんなに細長いんだぜ？」

「—あ、言われてみれば、そうね。—。うーん、難しそう」

「ううん。実際は、とてもシンプルさ。

“体が少し前に傾いたら、後ろに戻すように筋肉を収縮させる。体が後ろに傾いたら、前に戻すように筋肉を収縮させる。体が左に傾いたら、右に戻すように筋肉を収縮させる。…”ただ、その繰り返しが続いているだけのことなのさ。

人体が立位の姿勢を保つことができるのは、ふつう、そうした微妙な調整が自動的に何度も繰り返され続けているおかげなんだよ

「—アハッ♪ 言われてみれば、案外、単純かも—」

「だろ？ だから、“意識して立ち続けていること”も実は可能で、それだと、次のようになるんだ。

“前に傾いた！”→“立て直そう！”→実際に立て直して→…

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる」(次ページ上図)

「つまり、人間レベルの3ステップスがフル回転し続けているのね。

でも、いちいち、そんなことをしていたら、疲れちゃうよね」

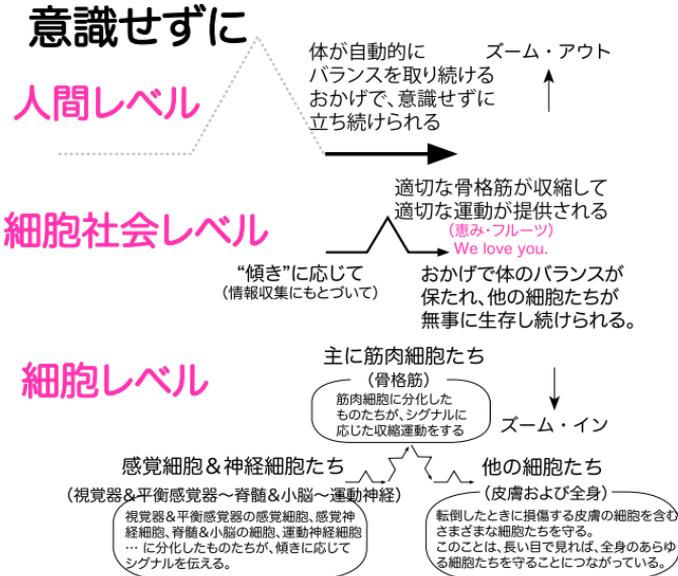
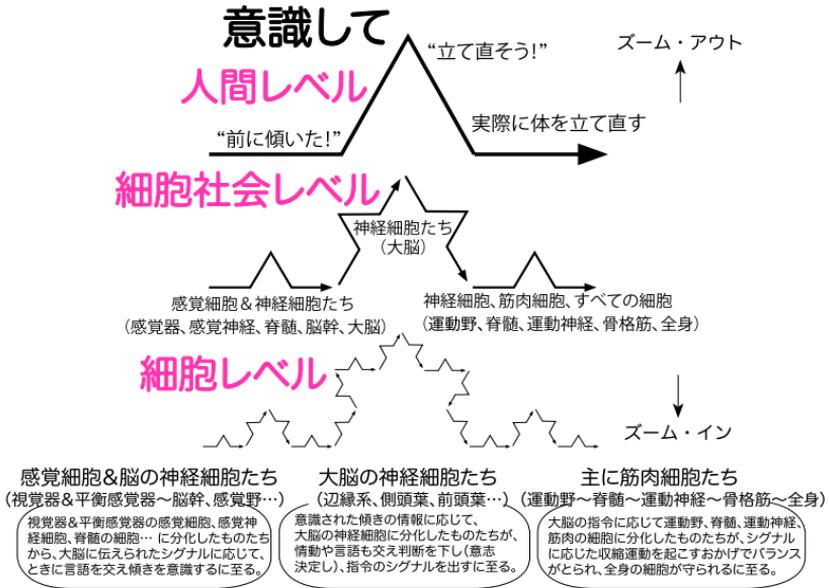
「そう。疲れる。—だから、ふつうは、そうじゃないんだよ」

「—ふつうは？」

「ふつうは、体が自動的にバランスを取り続けてくれる。だから、わざわざ意識しなくても済むし、大して疲れずにも済むのさ。

それをプチ・マップで表現すれば、次のようになる。(次ページ下図)

つまり、細胞社会レベルの3ステップスだけが自動的に回転し続けているのさ」



「——アハッ♪ 自動的にバランスを取り続ける方は、“省エネ”  
って感じで、ラクチンね♪ わざわざ意識しなくてすむし——」  
「そうだね。それで、この自動的な“省エネ”の方が、まさに、体  
で覚えていることなんだ。この例には、自転車乗りも含まれる。僕  
らのようなベテランになると、体が自動的にバランスを取ってくれる  
おかげで、わざわざ意識しなくても自転車は倒れないようになる」  
「——だから、自転車に乗りながら、風の心地よさや英単語覚えの  
方に意識を向けていられるのね♪」  
「その通りさ」

音楽 ♪春 Spring 224 に続く

## 224

「もちろん、体で覚えていることには、立位の姿勢を保つことや自  
転車に乗ること以外にも、いろいろある。歩くことや泳ぐこと、声  
を出すことや字を書くこと、ワープロやパソコンを操作すること、  
ハシなどの道具を使って食べること…を含めて、いろいろ——。

これらは、自動的な“省エネ”回路が体の中で働いている点で、  
どれも同じなんだ。

おかげで、わざわざ意識しなくて済むようになっていいる」と僕。  
「——そうすると、そうなるように何かを新たに体で覚えるために  
は、意識しながらの繰り返しの練習が重要になるのね？」と瑠音。  
「そう。もちろん、それは、何かを新たに頭で覚えるのも一緒だよ」  
「——。 ——あ、そうかあ！ 電話番号とか、歴史の年号とか、

くくとか、<sup>すうがく</sup>数学の<sup>こうしき</sup>公式とか、<sup>えいたんご</sup>英単語とか…何かを新たに暗記する際にも、<sup>いしき</sup>意識しながらの<sup>く</sup>繰り返しが<sup>かえ</sup>大切になるね」

「ああ。つまり、<sup>からだ</sup>体も<sup>あたま</sup>頭も、<sup>いしき</sup>意識して<sup>なんど</sup>何度も<sup>く</sup>繰り返せば、いつしか、その<sup>はたら</sup>働きが<sup>じどうか</sup>自動化しうる。

それが<sup>からだ</sup>体や<sup>あたま</sup>頭で<sup>おぼ</sup>覚えるということで、<sup>おぼ</sup>いったん<sup>おぼ</sup>覚えてしまえば、<sup>よゆう</sup>余裕ができて、<sup>つぎ</sup>次の<sup>あた</sup>新しい<sup>がくしゅう</sup>学習に<sup>いしき</sup>意識を<sup>む</sup>向けられるようになる」

「——あっ！ それは、<sup>あか</sup>赤ちゃんの<sup>はつたつ</sup>発達も、<sup>おな</sup>きっと<sup>おな</sup>同じよね？ <sup>すわ</sup>お座りして、<sup>たち</sup>ハイハイして、<sup>あ</sup>立ち上がって、<sup>ある</sup>歩いて、<sup>ことば</sup>言葉をしゃべって…。  
は<sup>きおく</sup>っきりとは<sup>のこ</sup>記憶に残ってないけど—— <sup>さいしよ</sup>最初のころは、<sup>いしき</sup>そのことに、<sup>いしき</sup>いっぱい<sup>む</sup>意識を<sup>む</sup>向けていたんだよね？ <sup>きつと</sup>——」

「ああ、そうだね。<sup>はじめ</sup>初めてのころは、<sup>なん</sup>たいいてい何だって、<sup>いしき</sup>意識がたくさん<sup>そそ</sup>注がれる。でも、<sup>からだ</sup>いったん<sup>あたま</sup>体や<sup>おぼ</sup>頭で<sup>おぼ</sup>覚えてしまえば、<sup>いしき</sup>わざわざ<sup>す</sup>意識しなくて<sup>す</sup>済むようになる——。

それは、<sup>わる</sup>悪く<sup>い</sup>言えば、“<sup>あ</sup>飽きるとか、<sup>しんせん</sup>新鮮さがなくなるとか”ってことだけれど—— <sup>い</sup>よく<sup>い</sup>言えば、“<sup>よゆう</sup>それだけ<sup>う</sup>余裕が<sup>う</sup>生まれて、<sup>つぎ</sup>次の<sup>あた</sup>新しい<sup>せいちよう</sup>成長に向けて<sup>む</sup>ステップアップできる”ってことなのさ」

「ええ、そうね。

もちろん—— <sup>し</sup>知らず<sup>し</sup>知らずに<sup>く</sup>繰り返されて、<sup>しゅうかん</sup>クセや<sup>きおく</sup>習慣や<sup>きおく</sup>記憶として、<sup>し</sup>知らず<sup>し</sup>知らずに<sup>からだ</sup>体や<sup>あたま</sup>頭で<sup>おぼ</sup>覚えられていることもあるだろうけれど—— <sup>いしき</sup>それら<sup>く</sup>さえも<sup>かえ</sup>意識して<sup>く</sup>繰り返せば、<sup>きつと</sup>きっと<sup>きつと</sup>リニューアルできるのよ。

——あ！ <sup>うんどう</sup>これが<sup>かた</sup>あてはまるのは、<sup>ちしき</sup>きっと<sup>おも</sup>運動の<sup>かた</sup>し方や<sup>ちしき</sup>知識の<sup>おも</sup>思い出し<sup>だ</sup>方<sup>かた</sup>だけじゃないわ。<sup>じょうしよ</sup>情緒や<sup>じょうそう</sup>情操を<sup>ふく</sup>含む<sup>かん</sup>感じ<sup>かた</sup>方も—— <sup>れんそう</sup>連想や<sup>れんそう</sup>想像を<sup>ふく</sup>含む<sup>かんが</sup>考え<sup>かた</sup>方も—— <sup>ことばづか</sup>言葉遣いや<sup>ひょうじよう</sup>表情を<sup>ふく</sup>含む<sup>ひょうげん</sup>表現<sup>かた</sup>し方も——

—そうよ、<sup>だんせい</sup>男性的なところや<sup>じょせい</sup>女性的なところも！」

「うん。—つまりは、“<sup>せい</sup>性格や<sup>こころ</sup>心とかも、<sup>い</sup>意識して<sup>く</sup>繰り返すこと  
で、<sup>じぶん</sup>自分が<sup>のぞ</sup>望むように<sup>あた</sup>新しく<sup>はぐ</sup>育める<sup>か</sup>可能性がある”ってことだね？」

「ええ。きっと、そうよ♪」

音楽フェード・アウト ♪春 Spring

## 225

「ああ、<sup>わたし</sup>私は、<sup>まんぷく</sup>もう満腹よ。もう<sup>じゅうぶん</sup>十分満足。—これなら、どんな  
に複雑な“<sup>く</sup>ライフの<sup>あ</sup>あり方”も、<sup>あ</sup>たった7つの<sup>あ</sup>フレームの<sup>あ</sup>組み合わせ  
せだけで、<sup>ていど</sup>ある程度、<sup>せつめい</sup>説明できそうよね？ <sup>あ</sup>アハッ♪」と溜音。

「—うん。<sup>ぶんけい</sup>文系の<sup>たちば</sup>立場としては、<sup>じゅうぶん</sup>もう十分かもしれないけれど、  
<sup>りけい</sup>理系の<sup>たちば</sup>立場としては、<sup>ものた</sup>まだ物足りないんだ」と僕。

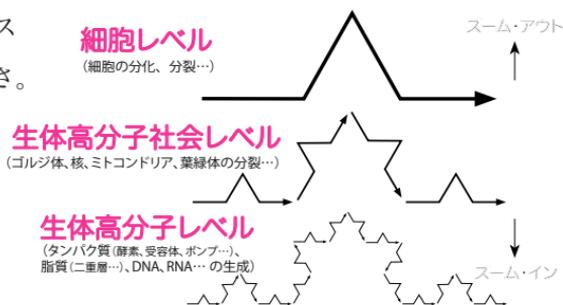
「え？ それって、もしかして—」

「そう。1個1個の<sup>さいぼう</sup>細胞レベルの3ステップは、それより<sup>こま</sup>細かい  
レベルの3ステップ  
で<sup>ささ</sup>支えられているのさ。

つまり、<sup>まだ</sup>まだまだ  
<sup>ズーム</sup>ズーム・インできる  
んだ」

「えー!？」

「それは、<sup>さいぼう</sup>細胞レベルの3ステップを<sup>ズーム</sup>ズーム・インすれば、<sup>せい</sup>生体  
<sup>こうぶん</sup>高分子<sup>し</sup>社会<sup>しゃかい</sup>レベルの3ステップが<sup>み</sup>見えて、さらに<sup>ズーム</sup>ズーム・イン  
すれば、<sup>せい</sup>生体<sup>こうぶん</sup>高分子<sup>し</sup>社会<sup>しゃかい</sup>レベルの3ステップが<sup>み</sup>見えるってことさ」



「——。生体高分子レベル——」

「そう。この生体高分子レベルの3ステップスより、さらに細かいレベルの3ステップスもあって——」 そう僕が言うと——

「えー！？ まだあ！？」 瑠音は、さらなる驚きの声を上げた。

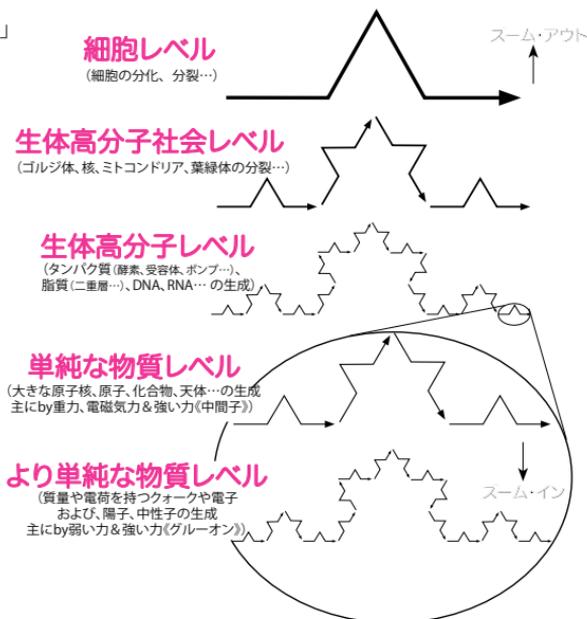
「まだ——。

それが、ついに単純な物質レベルの3ステップスさ。

これは、重力や電磁気力などの“物理的な力”によって、陽子や中性子、電子などの材料から、単純な物質が生成する過程としての、3ステップスなのさ。これは、物理法則に近いよ。

この単純な物質レベルの3ステップスは、生体高分子レベルの3ステップスからズームインして見ると同時に、より単純な物質レベルの3ステップスからズームアウトしても見えるんだ」

「ウーン」



# 226

「**単純な物質レベル**の最も**単純な例**の1つは、質量を持つ“**2つの物質** AとB”が重力によって**結びつく過程**さ」と僕。



「**人間社会レベル**の“**結婚**”の例と似ているね？」と留音。

「そう。似ている。何しろ、**フラクタル的**に相似だからね。

だから、**結婚**のときと同じように、次のような**2つの過程**が組み合わさっていると見なすことができる。



この**重力**がもたらす**過程**は、

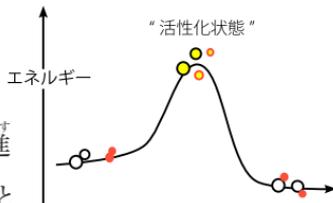
ごく**単純な例**だけれど、これを

組み合わせることで—— **太陽**や**地球**などの**天体**が**誕生**する**過程**の**根本部分**を説明できる」

「へえー♪ **なんだか**、**すごい**ね」

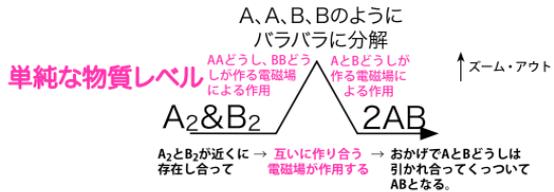
# 227

「この**単純な物質レベル**の**3ステップ**の例には、**前に**僕が**話した**、**化学反応**が進むかどうかを決める“**活性化エネルギー**”と



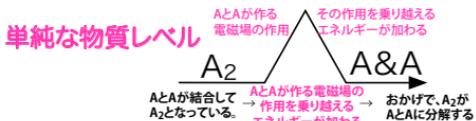
この乗り越えの過程も含まれる。

これを第7フレームを使って示せば、次のようになるよ。



これは、やや複雑だけれど、次のような3つの過程が組み合わせ

さっている」と見なせる」  
と僕。



「へえー。——と言っても、何となくしか、わからないんだけどね。

フツッ♪」と溜音

「何となくでも十分さ。ここで、これまで挙げた各レベルの3ステップたちを、全部まとめることができる。

つまり、前に君が連想した社会的なハードルと僕が連想した“活性化エネルギー”というハードルが、1つにつながっていたことになるんだよ」



「わたしの<sup>れんそう</sup>連想とあなたの<sup>れんそう</sup>連想が繋がっていた——」

「つながっているのは、化学と人間社会だけじゃないよ。さらには、  
君が得意な文系の<sup>か がく にんげんしやかい</sup>人文学、教育学、心理学とも、僕が得意な理系の<sup>きみ とくい ぶんけい じんぶんがく きょういがかく しんりがく ぼく とくい りけい</sup>ライフサイエンス、<sup>せいりがく ぶんしせいぶつがく</sup>生理学、分子生物学とも、ニュートン君——<sup>くん ここ</sup>心  
笑君が得意な<sup>えくん とくい ぶつりがく</sup>物理学とも、つながっていたことを意味しているのさ」

「へえー！」

## 228

「ポイントは、各レベルの3ステップスが、ズーム・インするかズーム・アウトするかに応じて見える側面であるってことなんだ」と僕。

「——え？ じゃさあ、物質現象だけでなく、生命現象も、人間のふるまいも、人間社会の営みも…どれもすべて、結局、物理的な力だけで、あるいは、物理法則だけで、すべて説明できてしまうということ？」 瑠音が素朴な疑問を投げ掛けた。

「でも、実際は説明できないよね？」

「ええ、そうね。 なんだか不思議——」

「僕も最初は不思議に思ったさ。でも、OK なんだよ」

「どういうこと？」

「うん。もちろん、生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ…は、どれも、重力や電磁気力などの物理的な力や、それらの力の働き方を示す物理法則で説明できるという一側面を持っているよ。

例えば“ニュートンの万有引力の法則で示されるような重力が地上のあらゆる生物においても働いているおかげで、地上の生物の暮らしが成立している”とか“クーロンの法則で示されるような電磁気力が地上のあらゆるライフにおいても働いているおかげで、化学反応が進んで生命の営みが成立できている”とかが具合にね」

「——ええ、そうね」

「それで、各レベルのライフは、物理的な力の働き方を示す物理法則に近いところの、単純な物質レベルの3ステップスが担う自然法

そく 則のおかげで誕生している一方で、同時に、別のレベルの3ステップが担う、別のレベルの自然法則のおかげでも誕生しているんだ」  
「別のレベルの自然法則——」

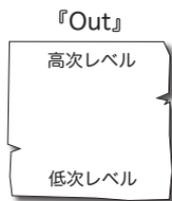
「そう。それが、ほかならぬ、単純な物質レベルからズーム・アウトすることで見える高次レベルの3ステップスが担っている決まった流れのことでさ。

つまり、ズーム・アウトすることで見える高次レベルの3ステップスが担っている決まった流れとしての新たな自然法則が、各レベルのライフを誕生させているから、各レベルのライフは、単純な物質レベルの3ステップスだけでも、それを支えている物理的な力や力の働き方を示す物理法則だけでも説明できなくなるのさ」

「——ウン」

「自然法則であるところの、3ステップスが担っている決まった流れとは、“この条件では、ほかでもなくこうなる”のような流れのことだよ。

ズーム・アウトすることで見える高次レベルとは、第4フレーム『In Out』における『Out』の方向のレベルのことだよ」



「——ウン、何となく、わかるような気がする——」

「歴史的な全体像を見ると、よりわかりやすくなるかも——」

「歴史？」

「歴史と言っても、百何十億年の歴史」

「百何十億年！？」

## 229

音楽イン ♪ Birthtime

いま ひゃくなんじゅうおくねん いじょう まえ うちゅう う  
「今から、百何十億年以上も前に、この宇宙が生まれた。

さいに じくう こうぞう せいじゅく かけてい へ うちゅう  
その際に、時空の構造が成熟する過程を経ながら、この宇宙にお  
いて、物理的“この条件ならば、こうなる”のような決まった流  
れ、物理法則に近いところの自然法則が成立した。

ぶつり てき じょうけん き なが  
この物質の生成過程に相当する3ステップスが担う自然法則は、  
さまざまな物質の構造——形を誕生させた。

たんじゅん ぶつしつ にな し ぜんほうそく たんじょう  
より単純な物質レベルの3ステップスが担う自然法則が誕生させ  
た存在が——

ぶつしつ ゆう い でん し  
物質優位の、電子やクォークであり

よう し ちゅうせい し  
陽子や中性子であった。

それらが支え合って生まれた、より 高次の単純な物質レベルの  
3ステップスが担う自然法則が誕生させた存在が——

げん し かく  
原子核であり

すい そ かる げん そ  
水素、ヘリウム…などの軽い元素であり

こうせい  
恒星であり

たん そ ちつ そ さん そ てつ おも げん そ  
炭素、窒素、酸素、鉄…などの重い元素であり

せいうん  
星雲であり

ちい てんたい  
小さな天体であり

たいよう ちきゅう  
太陽や地球であった。

たんじょう ま ちきゅうじょう ぶつしつ ぜんざい  
誕生して間もない地球上には物質だけが存在していた。

ぶつり ほうそく ちか にな し ぜんほうそく ちきゅうじょう  
この物理法則に近い3ステップスが担う自然法則は、地球上に、

ある程度、多様な自然、多様な物質の構造——形を誕生させた。

※例えば、アンモニア、メタン、二酸化炭素、水分子、アミノ酸、リン酸、脂質などの単純な分子、および、雲のモクモク、雪の結晶、海岸線のギザギザ、合流を繰り返す川のクネクネ、山のデコボコ、火山噴火、マントルの対流、移動する大陸、岩石、海、雷、雨、小石、風…を誕生させた。



多様な物質たちが支え合って生まれた、生体高分子レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な生体高分子構造——形を誕生させた。

※例えば、タンパク質（酵素、ポンプ、受容体…）、脂質二重層、DNA…を誕生させた。



多様な生体高分子レベルのライフたちが支え合って生まれた、生体高分子社会レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステップが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な生体高分子社会形態——形を誕生させた。

※例えば、触媒タンパク質が連携する代謝系とリン脂質二重層によって形成された細胞膜などが協力しあっている原始生命、原核生物（細菌や古細菌）…を誕生させた。

※とりわけ、“RNAやDNA”を使うさまざまな生体高分子レベルのライフが支え合ったことは、生体高分子社会レベルの3ステップが担う自然法則を世代を越えてより確実に伝えることを可能にした。

この自然法則は、より迅速に書き換わりえた。

→新たな生体高分子社会形態——形が、より迅速に誕生するようになった。

その結果、生体高分子社会レベルのライフのみならず、生体高分子レベルのライフの、より迅速な進化が可能になった。



多様な生体高分子社会レベルのライフたちが支え合って生まれた、  
 複雑な(真核)細胞レベルのライフの生成過程に相当する、より高  
 次レベルの3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、  
 多様な細胞構造——形を誕生させた。

※例えば、(ミトコンドリア、葉緑体の起源となった)原核生物たちの共生に  
 よって生まれた、核を持つ、複雑で多様な真核細胞を誕生させた。

※真核細胞は、さまざまな条件に応じた“分化&分裂”を達成できるようにも  
 なった。有性生殖が始まると、細胞レベルの3ステップスが担う自然法則の  
 書き換え効率はさらに上がった。



多様な細胞レベルのライフたちが支え合って生まれた、細胞社会  
 レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベルの3ステッ  
 プスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な細胞社会形態  
 ——形を誕生させた。

※例えば、細胞間のコミュニケーションおよび細胞の“分化&分裂”の連携プ  
 レーの成熟により、単純な多細胞生物(エディアカラ生物群)を誕生させた。



多様な細胞社会レベルのライフたちが支え合って生まれた、(複  
 雑な)個体レベルのライフの生成過程に相当する、より高次レベル  
 の3ステップスが担う自然法則は、さらなる多様な自然、多様な複  
 雑な個体形態——形を誕生させた。

※例えば、目を持つ、カンブリア紀の生物(節足動物…)、のちの脊椎動物  
 (魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類《霊長目…》)を誕生させた。



多様な<sup>たよう</sup>個体<sup>こたい</sup>レベル<sup>れいぶる</sup>のライフ<sup>らいうふ</sup>たちが<sup>た</sup>支え<sup>ささ</sup>合<sup>あ</sup>って<sup>う</sup>生まれ<sup>う</sup>た、<sup>こたいしゃかい</sup>個体社会<sup>こたいしゃかい</sup>レベル<sup>れいぶる</sup>のライフ<sup>らいうふ</sup>の生成<sup>せいせい</sup>過程<sup>かてい</sup>に相当<sup>そうとう</sup>する、より<sup>こうじ</sup>高次<sup>こうじ</sup>レベル<sup>れいぶる</sup>の3<sup>さん</sup>ステップ<sup>すてぷ</sup>スが担<sup>にな</sup>う自然<sup>しぜん</sup>法則<sup>ほうそく</sup>は、さらなる<sup>たよう</sup>多様な<sup>しぜん</sup>自然<sup>たよう</sup>、多様な<sup>こたいしゃかい</sup>個体社会<sup>こたいしゃかい</sup>形態<sup>けいぎ</sup>——<sup>かたち</sup>形<sup>たんじょう</sup>を誕生<sup>たんじょう</sup>させた。

※例えば、<sup>たと</sup>個体<sup>こたい</sup>間<sup>かん</sup>の<sup>せいじゆく</sup>コミュニケーション<sup>かきしゆ</sup>の成熟<sup>こたいしゃかい</sup>により、<sup>たんじょう</sup>各種<sup>かんしゆ</sup>の個体社会<sup>こたいしゃかい</sup>を誕生<sup>たんじょう</sup>させた。

※とりわけ、洗練<sup>せんれん</sup>された<sup>げんご</sup>言語<sup>おんせいげんご</sup>〈<sup>もじ</sup>音声<sup>おんせい</sup>言語<sup>げんご</sup> & <sup>つか</sup>文字<sup>もじ</sup>〉を<sup>にんげん</sup>使う<sup>にんげん</sup>さまざま<sup>にんげん</sup>な人間<sup>にんげん</sup>レベル<sup>れいぶる</sup>のライフ<sup>らいうふ</sup>が<sup>にんげん</sup>支え<sup>しぜん</sup>合<sup>ほうそく</sup>った<sup>にな</sup>ことは、人間<sup>しぜん</sup>社会<sup>ほうそく</sup>レベル<sup>にな</sup>の3<sup>さん</sup>ステップ<sup>すてぷ</sup>スが担<sup>にな</sup>う自然<sup>しぜん</sup>法則<sup>ほうそく</sup>の<sup>ふんめい</sup>所産<sup>ふんめい</sup>である<sup>ぶんか</sup>文明<sup>ぶんか</sup>や<sup>ねんれい</sup>文化<sup>ねんれい</sup>…を、<sup>せだい</sup>年齢<sup>せだい</sup>や<sup>ちいき</sup>世代<sup>ちいき</sup>、<sup>こ</sup>地域<sup>こ</sup>を越<sup>こ</sup>えて、より<sup>かくじつ</sup>確実<sup>かくじつ</sup>に<sup>つた</sup>伝<sup>つた</sup>える<sup>か</sup>ことを<sup>のう</sup>可能<sup>のう</sup>にした。

この<sup>しぜんほうそく</sup>自然<sup>しぜん</sup>法則<sup>ほうそく</sup>は、より<sup>じんそく</sup>迅速<sup>じんそく</sup>に<sup>か</sup>書<sup>か</sup>き換<sup>か</sup>わり<sup>か</sup>えた。  
→<sup>あら</sup>新たな<sup>あら</sup>機能<sup>きのう</sup>を持つ<sup>あら</sup>ライフ<sup>あら</sup>スタイル<sup>きのう</sup>、<sup>にんげん</sup>新たな<sup>にんげん</sup>機能<sup>しんしゃかい</sup>を持つ<sup>かたち</sup>人間<sup>かたち</sup>社会<sup>しんしゃかい</sup>形態<sup>しんしゃかい</sup>——<sup>かたち</sup>形<sup>かたち</sup>が、より<sup>じんそく</sup>迅速<sup>たんじょう</sup>に<sup>たんじょう</sup>誕生<sup>たんじょう</sup>するようになった。

その<sup>けつ</sup>結果<sup>けつ</sup>、<sup>にんげん</sup>人間<sup>にんげん</sup>社会<sup>しんしゃかい</sup>レベル<sup>しんしゃかい</sup>のライフ<sup>しんしゃかい</sup>のみならず、<sup>にんげん</sup>人間<sup>にんげん</sup>レベル<sup>しんしゃかい</sup>のライフ<sup>しんしゃかい</sup>の、より<sup>じんそく</sup>迅速<sup>じんそく</sup>な<sup>はってん</sup>発展<sup>はってん</sup>や<sup>せいじゆく</sup>成熟<sup>せいじゆく</sup>が<sup>か</sup>可能<sup>か</sup>になった。

——これが、<sup>ひやくなんじゅうおくねん</sup>百何十億<sup>れきし</sup>年の<sup>れきし</sup>歴史<sup>れきし</sup>さ」

音楽<sup>おんがく</sup>フェード・アウト ♪ Birthtime

## 230

ザブーン、ザザザシュー …

なぜか、<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>の中に、<sup>なつ</sup>夏<sup>なつ</sup>の<sup>うみ</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>なみ</sup>波<sup>なみ</sup>の<sup>おと</sup>音<sup>おと</sup>が<sup>ひび</sup>響<sup>ひび</sup>き渡<sup>わた</sup>っていた。

「3<sup>さん</sup>ステップ<sup>すてぷ</sup>スって、<sup>しぜんほうそく</sup>どれも<sup>にな</sup>自然<sup>しぜん</sup>法則<sup>ほうそく</sup>を<sup>る</sup>担<sup>ね</sup>っていたのね」と<sup>る</sup>溜音<sup>る</sup>。

「そうさ、<sup>ていじ</sup>低次<sup>ていじ</sup>の3<sup>さん</sup>ステップ<sup>すてぷ</sup>スが<sup>ぶつり</sup>物理<sup>ぶつり</sup>法則<sup>ほうそく</sup>に近い<sup>ちか</sup>自然<sup>しぜん</sup>法則<sup>ほうそく</sup>を<sup>にな</sup>担<sup>にな</sup>っていたし、<sup>こうじ</sup>高次<sup>こうじ</sup>の3<sup>さん</sup>ステップ<sup>すてぷ</sup>スが<sup>ほうそく</sup>ライフ<sup>ほうそく</sup>法則<sup>ほうそく</sup>としての<sup>しぜんほうそく</sup>自然<sup>しぜん</sup>法則<sup>ほうそく</sup>を<sup>にな</sup>担<sup>にな</sup>つ

ていた——」と僕。

「さまざまな物質だけでなく、さまざまなライフも、自然法則のおかげで誕生できた存在だったのね」

「そうだね。“この条件ならば、こうなる”のような決まった流れは、さまざまなライフにもあって、このライフ法則としての自然法則のおかげで、さまざまなライフが誕生できたのさ。

しかも、低次元レベルの3ステップに支えられる“物理法則に近い自然法則”の生む自然が、比較的単純であり続けるのに対して、高次元レベルの3ステップに支えられる“ライフ法則としての自然法則”の生む自然——ライフ形態、個体形態、社会形態…は、どこまでも複雑多様になりうる」

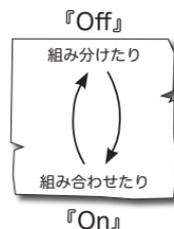
「だから、ライフは、物理法則だけで説明できなくなるのね」

「そうさ。さらに、DNAや言葉などを利用するライフの場合は、自然法則を迅速に書き換えることで、新しい形、すなわち、新しいライフを迅速に誕生させることができるから、ますます、決まりきっている物理法則だけでは説明できなくなる」

「——アハッ♪」

このライフにおける自然法則の書き換えの話は、高3の夏のとき  
の海辺での『“組み合わせたり組み分けたり”が  
繰り返されるおかげで、あらゆる新しい存在が創  
造される』という話と関係あるかしら？」

「大ありだよ。DNAや言葉などを利用した自然法則の書き換えも、まさに“組み合わせたり組み分けたり”の繰り返しの例に相当しているから。



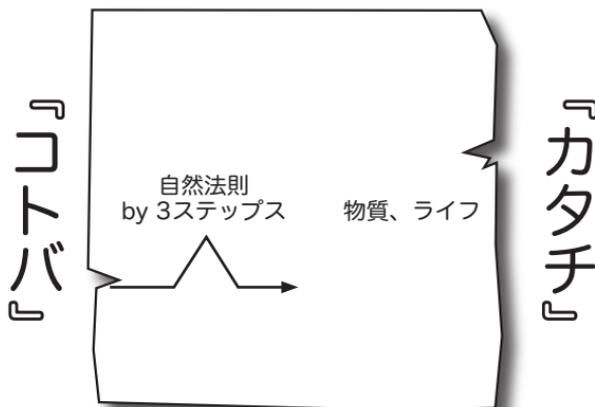
ただ、『組み合わせたり組み分けたり』が繰り返されるおかげで、あらゆる新しい存在が創造される』という話は、ライフにおける自然法則の書き換えだけに限らず、もっと普遍的なことだよ。

例えば、決まりきっている物理法則に近い自然法則のもとで、唯一無二の地球という天体が誕生したのも、“組み合わせたり組み分けたり”の繰り返しのおかげだから。それは、太陽や月も同じ——」

「あ、そうか——」

「いずれにしても、次のようなことも言える。

自然法則 by 3ステップスが『コトバ』の方向にあるなら、その所産、物質、ライフそのものが『カタチ』の方向にあるということも——。



つまり、『カタチ コトバ』のフレームは、より単純な物質レベル～単純な物質レベルの物質から、生体高分子レベル～人間社会レベルのライフまで、広く適用できるのさ」

「へえー！」

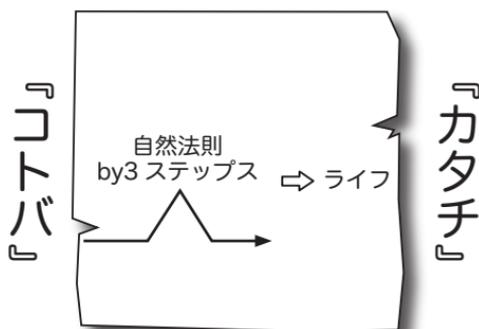
## 231

ザブーン、ザザザシュー …

相変わらず、夏の海の心地よい波の音が心の中に響き渡っていた。

「つまり、生体高分子レベルのライフ、生体高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ、いずれのライフも、3ステップという生成過程を経て誕生していることは、『コトバ』の方向の“自然法則 by 3ステップ”をベースにして、ライフという『カタチ』の方向の存在が誕生しているから見なせるのさ。

まあ、これがライフの本質の1つだね」と僕。



「——1つということは、ほかにもあるの？」と瑠音。

「ある。もう1つの本質は、『カラダ アタマ』のフレームを“ミクロの生体高分子レベルのライフからマクロの人間社会レベルのライフまで”適用すると見えるんだよ」

「へえー。どんな本質なの？」

「それぞれのレベルのライフは、自身を支える重要な部分、すなわ

ち、『アタマ』の<sup>ほうこう</sup>方向の<sup>ぶぶん</sup>部分を持<sup>も</sup>っているという<sup>ほんしつ</sup>本質さ」

「——ウ～ン」

「<sup>ぐたいてき</sup>具体的に<sup>み</sup>見ると<sup>つぎ</sup>次のようになる」

ライフ	『カラダ』	『アタマ』
生体高分子レベル	1つの生体高分子	活性中心 (=生体高分子レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の分子のセット〉 ※特に、酵素の活性中心
生体高分子社会レベル	生体高分子の集合体	遺伝子発現回路 (=生体高分子社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“生体高分子レベルのライフ”のセット〉 ※特に、RNA、DNA、調節タンパク質…を含む遺伝子発現回路
細胞レベル	1つの細胞体	細胞核 (=細胞レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“生体高分子社会レベルのライフ”のセット〉 ※特に、分化や増殖(細胞サイクル)を支える遺伝子発現回路を含む細胞核
細胞社会レベル	細胞の集合体	神経中枢 (=細胞社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“細胞レベルのライフ”のセット〉 ※特に、脊髄の反射中枢、脳幹の神経核(呼吸中枢…)、自律神経節、小脳、大脳基底核、辺縁系、脳下垂体、大脳皮質の各葉(前頭葉、側頭葉、後頭葉…)…を含む神経中枢
人間レベル	1つの人体	脳頭《脳神経系》 (=人間レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“細胞社会レベルのライフ”のセット〉 ※特に、感覚、感情、思考、想像、言語、知恵、学習、判断、ユーモア、意志・意欲、ひらめき、創意工夫、創造性、行動…を含む働きをする頭脳
人間社会レベル	人間の集合体	先導的な存在《リーダー》 (=人間社会レベルのライフを支える重要部分) 〈一部の“人間レベルのライフ”のセット〉 ※特に、元首、首長、司法官、立法官、行政官、経営者、資本家、アーティスト、技術者、学者、作家、メディア…を含むリーダー

「ウン—— 何となくわかるような、わからないような——」

「うん。まず、生体高分子レベルのライフについて見てみるよ。

この生体高分子レベルのライフを支える重要な部分は、一部の分子のセット——特に、酵素の活性中心だよ。この部分は、もし損なわれてしまえば、“タンパク質やRNA”などの酵素としての働きが失われて、生体高分子レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「生体高分子社会レベルのライフを支える重要な部分は、一部の“生体高分子レベルのライフ”のセット——特に、RNA、DNA、調節タンパク質…を含む遺伝子発現回路だよ。この部分は、もし損なわれてしまえば、“タンパク質の合成”や“DNAの合成”に基づく発現や複製が達成できなくなって、生体高分子社会レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「細胞レベルのライフを支える重要な部分は、細胞核、一部の“生体高分子社会レベルのライフ”のセット——特に分化や増殖を決める遺伝子発現回路を含む細胞核だよ。

この細胞核は、もし損なわれてしまえば、“細胞の機能や構造を決める分化”や“細胞数をほどよく保つような増殖”が達成できなくなって、細胞レベルのライフが失われてしまう—— それほど重要な部分なんだよ」

「——ウン」

「細胞社会レベルのライフを支える重要な部分は、神経中枢、一部

の“細胞レベルのライフ”のセット——特に神経節や神経核…を含む神経中枢だよ。この神経中枢は、もし損なわれてしまえば、例えば、無意識の呼吸や反射的な運動が達成できなくなって細胞レベルのライフ、例えば、睡眠状態の人体のライフや植物状態の人体のライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ」

「——うん」

「人間レベルのライフを支える重要な部分は、頭脳、一部の“細胞社会レベルのライフ”のセット——特に、感覚、感情、思考、想像、言語、知恵、学習、判断、創意工夫、行動…を含む働きをする頭脳さ。

この頭脳のさまざまな働きのおかげで、例えば、どうすれば食糧を得られるか、どうすれば危険な動植物を回避できるか、どうすれば衣類によって体温を調節できるかを考えて対応できたり、煙や水を間違つて吸い込まないようにするために、あるいは、声を出して助けを求めるために呼吸をコントロールできたり、どうやって気持ちや思いを相手に伝えるかを考えて表現できたりする。

だから、この頭脳は、もし損なわれてしまえば、食糧調達、安全保障、体温調節、呼吸の調節、コミュニケーション…が達成できなくなって、人間レベルのライフが失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ。

もちろん、頭脳は、みんなのために、どうすれば貢献できるかを思考するためにも、すぐれたアイデアや有効なツールをタイムリーに創造するためにも、衝動や感情をコントロールしながら情緒を育むためにも役立つわけで——」

「単に生きのびるためだけでなく、よりよく生きるためにも、重要な部分なのね」

「そうだね」

「——じゃあ、次の、人間社会レベルのライフを支える重要な部分  
は？」と彼女が尋ねた。

「それは、人間社会レベルのライフの中の先導的な存在、一部の  
“人間レベルのライフ”のセット——特に、元首、首長、司法官、立  
法官、行政官、経営者、資本家、アーティスト、技術者、学者、作  
家、メディア…を含むリーダーだよ。

だから、この人間社会レベルのライフの中の先導的な存在は、も  
し損なわれてしまえば、人間社会レベルのライフの安全、安定、成  
長、発展、成熟が達成できなくなって、人間社会レベルのライフが  
失われてしまう——それほど重要な部分なんだよ」

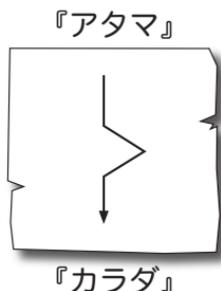
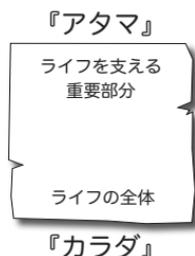
「ええ、そうね」

「これらのように生体高分子レベルのライフ、生体  
高分子社会レベルのライフ、細胞レベルのライフ、  
細胞社会レベルのライフ、人間レベルのライフ、  
人間社会レベルのライフは、それぞれ、それぞれのライフ  
を支える重要な部分を持っている。

つまり、それぞれのレベルのライフの全体が、それぞれのライフ  
を支える重要な部分のおかげの存在であることが、もう1つのライフ  
の本質なのさ」

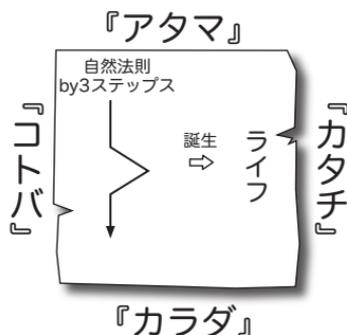
「ふーん」

「——ところで、重要な部分がライフを支える過程  
は、第7フレームの第1ステップから第2ステッ  
プに相当しているから、次のように示せる。



重要部分が支えるライフの営みには、  
誕生、成長、発達、発展、成熟、持続  
…が含まれる。

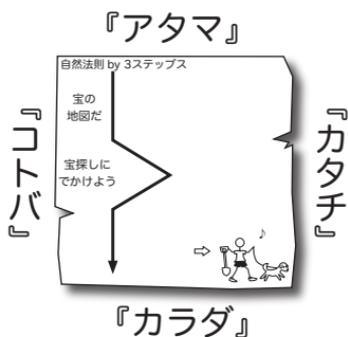
だから、例えば、ライフの誕生の過程は、厳密には、『カタチ コトバ』の枠に『カラダ アタマ』の枠も交えて、次のように示せたことになる。



このことは、細胞レベルのライフ、細胞社会レベルのライフ、個体レベルのライフ、人間レベルのライフ、人間社会レベルのライフ…いずれのライフの誕生の過程にもあてはまる」

「——うん」

「一方、例えば、“宝の地図だ”から“宝探しに行こう”と決めて実際に宝探しに行く過程も、ライフを誕生させていたり、ライフを成長させていたりしていて、『カタチ コトバ』と『カラダ アタマ』の両方の枠の上で繰り広げられていたと示せる。

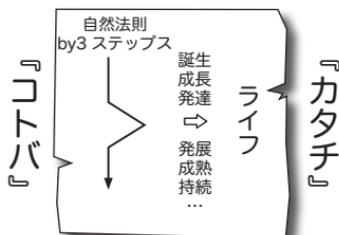


それは、“お腹が空いた”から“何かを食べよう”と決めて実際に食べる過程、“寒い”から“厚着しよう”と決めて実際に厚着する過程を含むライフを持続する過程、詩や写真を育んだり、子育てしたりを通じて、成長、発達、成熟する過程、新たな経済活動を含む何らかの営みを通じて、人間社会が発達、発展する過程も同じさ」

「——ええ、そうね」

## 『アタマ』

「だから、ライフの<sup>たんじょう</sup>誕生、<sup>せいちょう</sup>成長、<sup>はっ</sup>発  
<sup>たつ</sup>達、<sup>はってん</sup>発展、<sup>せいじゅく</sup>成熟、<sup>じぞく</sup>持続…いずれも、  
 『カタチ コトバ カラダ アタマ』  
 のすべてのおかげだったことになる。

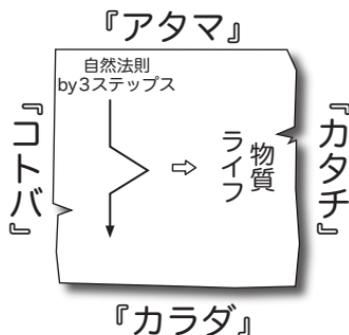


## 『カラダ』

つまり、『コトバ』の方向の“<sup>しぜんほうそく</sup>自然法則 by 3ステップス”のおかげでライフという『カタチ』の方向の<sup>ほんしつ</sup>実在が存在するという<sup>ほんしつ</sup>本質と、それぞれのレベルのライフが<sup>じしん</sup>自身を支える『アタマ』の方向の<sup>じゅうよう</sup>重要部分を持っているという<sup>ほんしつ</sup>本質、<sup>りやうほう</sup>両方の<sup>ほんしつ</sup>本質のおかげで、ライフの<sup>たん</sup>誕生、<sup>せいちょう</sup>成長、<sup>はっ</sup>発達、<sup>はってん</sup>発展、<sup>せいじゅく</sup>成熟、<sup>じぞく</sup>持続…が<sup>せいりつ</sup>成立していたのさ。

しかも、これらの<sup>せつめい</sup>説明は、ライフだけでなく、<sup>ぶつしつ</sup>物質——<sup>ぶつりがく</sup>物理学や<sup>かが</sup>化学が<sup>あつか</sup>扱う<sup>たいしやう</sup>対象にも<sup>おもう</sup>応用できる。

第7フレームの<sup>だい</sup>第1ステップから<sup>だい</sup>第2ステップまでが『アタマ』の方向にあって、<sup>だい</sup>第3ステップが『カラダ』の方向にあると<sup>み</sup>見なせるから——



## 232

瑠音は興奮気味に話した。「すごいじゃない！ ついにナゾが解けたじゃない！

きつと、これらこそが探しまとめた“究極の意味”よね？

マクロの社会現象も、等身大の人生現象も、頭脳における思考現象も、心身における感情現象も、身体の生理現象も、ミクロの細胞現象も含むライフ現象も、物理学や化学が扱う物質現象も——

社会学や人文学も、自然科学も——

つまりは、文も理も、共通の土台の上で説明できるんですもの。

すごいことよ。きつと大発見よ！ 早く世の中に発表しましょうよ！」

「——。——本当に、これらだけで十分なのだろうか？」と僕。

「え？ ——どうして？」

「だって—— まだ何か足りないような気がするんだ」

「——え？」

「まだ、ライフのパズルを解く究極のカギではない気がするから」

「——そうね」

「それに、知識アップだけでなく、知恵アップやフルーツ育てにも貢献したいんだ。“世の中のみんなのためになって、みんなが満足できるフルーツ”のような、おいしさにつなげたいんだ。

——山は越えたから、あとは、もうちょいさ」

「うん♪」

## 233

その日の晩、自分のアパートのベッドの上で仰向けになりながら、あれこれ思いめぐらせた。

これまでは、第7フレームに加え――

第1フレーム『カタチ コトバ カラダ アタマ』のすべて、

第2フレーム『カコ イマ ミライ』の中の『カコ』、

第3フレーム『→』、

第4フレーム『In Out』、

第6フレーム『Off On』を利用した考察が、メインだった。

知恵アップやフルーツ育てにつながることを考えるためには、きっと、第5フレーム『Against For』の中の『For』、および、第2フレーム『カコ イマ ミライ』の中の『イマ』や『ミライ』が、より大事になるだろう。

『イマ』――

音楽イン ♪冬 Winter

自然破壊の問題

環境汚染の問題

極端な気候変動の問題

種の絶滅の問題

さまざまな闘争の問題

...

いろいろな問題が、人間社会レベルのライフ、人間レベルのライフを含む全人類の前に山積みになっている。

それでは、『ミライ』はどうなるのだろうか？

はたして、人間社会レベルのライフ、人間レベルのライフを含む  
全人類は、このまま長く存続できるのだろうか？

それとも——

・・・

いま、みんなのために何ができるのだろうか？

・・・

そして——

ふと、瑠音との会話で登場した“かわいたちくん”ことを思い出  
したんだ。

ニホン・カワウソ——

絶滅したと言われている彼ら彼女ら——

・・・

さらに、ランプベリーのことも思い出した。

ランプベリーとともに過ごした幸せな日々——。

ランプベリーのおかげで楽しさが増した思い出たち——。

ランプベリー

・・・

さらに、コンパス一家のことも思い出した。

あの出会いは、いったい、何だったのだろうか？

あの出会いは、何を意味していたのだろうか？

彼ら彼女らは、いったい何者たちだったのだろうか？

．．．

—あっ！

そのとき、ハッとしたんだ。

—そうだ！ <sup>けっきょく</sup>結局、<sup>にんげんしゃかい</sup>人間社会レベルのライフまでしか僕は<sup>ぼく</sup>見て<sup>み</sup>いなかったんじゃないか？

—もし、<sup>ちきゅうじょう</sup>地球上のあらゆる<sup>い</sup>生き物<sup>もの</sup>たちを含む、すべてのライフを“<sup>しん</sup>進化<sup>か</sup>の<sup>さいぜんせん</sup>最前線”と見<sup>み</sup>なしたら、どうなるだろう？

ほかの<sup>い</sup>生き物<sup>もの</sup>たち、ほかの<sup>しゅ</sup>種<sup>しや</sup>も視野<sup>い</sup>に入れることで<sup>はじ</sup>初めて<sup>み</sup>見える何か。<sup>なに</sup>人間社会<sup>にんげんしゃかい</sup>レベルよりも、さらにズーム・アウトすることで<sup>はじ</sup>初めて<sup>み</sup>見える何か。<sup>なに</sup>…

それらも、きっと、あるはずだ！

<sup>ほうこう</sup>この方向づけは、<sup>かんが</sup>考えが<sup>か</sup>加速<sup>そくてき</sup>的に<sup>ふか</sup>深まる<sup>ふか</sup>きっかけとなった。

それなりの<sup>せい</sup>成果<sup>か</sup>へと<sup>じゅく</sup>熟<sup>じかん</sup>すまで、時間は、さほどかからなかった。

音楽終了 ♪冬 Winter

7つのワクワク枠 / The 7 Frames For All Life

みんなのコンパス②

第7フレーム

『  』

【完】